



情報漏洩対策シリーズ

アップデートマニュアル

アリスシステムインテグレーション株式会社



情報漏洩対策シリーズ InterSafe ILP Ver4.00

目次

1. はじめに	4
1-1. 用語解説	5
1-2. 製品の特長	7
1-3. アップデートを実施するには	8
1-4. バージョンの確認方法	9
データベースバージョンの確認方法	9
InterSafe Manager バージョンの確認方法	10
InterSafe Server バージョンの確認方法	11
InterSafe Workflow バージョンの確認方法	11
InterSafe UpdateServer バージョンの確認方法	12
2. ILP Server のアップデート(Ver2.x からのアップデート)	13
2-1. ILP Server アップデートの流れ(Ver2.x からのアップデート)	14
2-2. 旧バージョンの環境を確認する	15
2-3. Apache サービス、Tomcat サービスを停止する	16
Apache サービスの停止	16
Tomcat サービスの停止	17
2-4. データベースのバックアップ	18
2-5. 既存プログラムのアンインストール	22
2-6. 新規プログラムのインストール	23
2-7. データベースのリストア・変換	24
Apache サービスの停止	24
Tomcat サービスの停止	25
データベースのリストア・変換	26
3. ILP Server のアップデート(Ver3.x からのアップデート)	30
3-1. ILP Server アップデートの流れ(Ver3.x からのアップデート)	31
3-2. 旧バージョンの環境を確認する	32
3-3. Apache サービス、Tomcat サービスを停止する	33
Apache サービスの停止	33
Tomcat サービスの停止	34
3-4. データベースのバックアップ・変換	35
3-4-1 マイグレーションツールによるバックアップ・変換手順	36
データベースのバックアップ	36
データベースの変換	40
3-4-2 フォルダコピーによるバックアップ・変換手順	42
PostgreSQL サービスの停止	42
データベースのバックアップ(フォルダコピー)	43
PostgreSQL サービスの開始	44

データベースの変換	45
3-5. 旧プログラム(.war ファイル及び展開済みファイル)と work フォルダを削除する	48
3-6. 新規プログラム(war ファイル)をコピーする。	50
3-7. Tomcat サービス、Apache サービスを開始する	51
Tomcat サービスの開始	51
Apache サービスの開始	52
4. InterSafe Client のアップデート	53
4-1. InterSafe Client アップデートの流れ	54
4-2. システム管理者の作業	55
更新プログラムを登録する	55
更新プログラムの配信を有効にする	58
4-3. システム管理者、グループ管理者の作業	59
アップデート対象グループ/ユーザーに更新プログラムを設定する	59
アップデート対象グループ/ユーザーの配信方法を設定する	61
4-4. ユーザーの作業	62
更新確認が「ログイン時」の場合	63
更新確認が「タスクトレイメニュー選択時」の場合	64
5. セキュアデバイスのアップデート	65
5-1. セキュアデバイスのアップデートの流れ	66
5-2. セキュアデバイスのアップデート	67
セキュアデバイスのアップデート	67
6. ユーザー連携ツールのアップデート	71
6-1. バージョンアップ作業の流れ	72
6-2. 既存環境の設定/ログのバックアップ	73
6-3. CSV ファイルの編集	76
7. アップデート後の注意事項	77
セキュアデバイスの再作成に関する注意事項	78
アンインストールに関する注意事項	78
プロセス終了対策設定が有効な場合	78
メールテンプレートの文言変更について	78
セキュアデバイスの互換性	79




1

1. はじめに

このたびは情報漏えい対策シリーズ『InterSafe ILP』をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本商品の取扱説明書は、下記の全 6 冊で構成されています。

- ・ インストールマニュアル : 各コンポーネントのインストール手順を記載
- ・ InterSafe Manager 操作マニュアル : 管理者ツールの操作方法を記載
- ・ InterSafe Client 操作マニュアル : クライアントソフトに関する操作方法を記載
- ・ セキュアデバイス操作マニュアル : セキュアデバイスに関する操作方法を記載
- ・ ユーザー連携ツール操作マニュアル : ユーザー連携ツールに関する操作方法を記載
- ・ アップデートマニュアル : 各コンポーネントのアップデート手順を記載

本書の内容、および本書で記載しているソフトウェアの動作仕様については将来予告なしに変更される可能性があります。また、本書の記述が実際のソフトウェアの動作と異なる場合は、実際のソフトウェアの動作が優先されます。記載された内容(画面含む)は、改良等により実際の製品と異なる場合があります。

マーク/記号	説明
	補足情報を記載しています。
	注意事項を記載しています。
	関連情報の場所を記載しています。

1-1.用語解説

本書で使用する用語を下記の通り定義して使用します。

■用語解説(1/2)

用語	説明
InterSafe Manager (略記:IS Manager)	本システムの設定情報を管理(設定・閲覧など)するツールです。
InterSafe Client (略記:IS Client)	端末に常駐し、InterSafe Manager で設定された情報を基に動作するソフトウェアです。
InterSafe WorkFlow (略記:IS WorkFlow)	ワークフロー機能を利用する為のツールです。
InterSafe Server (略記:IS Server)	InterSafe Client がログインし、各種ポリシーの配信やログの受信を行うサーバーです。
InterSafe WorkFlow Server (略記:IS WorkFlow Server)	ワークフロー機能を利用する為のサーバーです。
InterSafe Update Server (略記:IS Update Server)	アップデート機能を利用する為のサーバーです。
DataBase Server	本システムに関するポリシーやログの情報が格納されるサーバーです。
ワークフロー	外部デバイス利用、ファイル書出しに関する申請を承認者/決裁者に申請し、承認/決裁処理を行うことで一定期間利用可能になるシステムです。
ILP Server	IS Server、IS WorkFlow Server、IS Update Server、DataBaseServer の本製品のサーバーの総称です。
システム管理者	本システムにおいて全設定権限を持つ管理者です。システムにつき、1 アカウントだけ存在します。
グループ管理者	本システムにおいて特定の設定権限を持つ管理者です。各ユーザーに対して、権限が付与され、IS Manager を利用することが出来ます。
登録済み USB デバイス	ユーザーが登録した USB デバイスを指します。
外部デバイス	本システムでは、リムーバブルディスク、登録済み USB デバイス、セキュアデバイスや光学メディア、モデム、プリンターを指します。
シングルサインオン	ユーザーID、パスワードを入力する認証画面を省略し、IS Client や IS Manager にログインする仕組みを指します。

■用語解説(2/2)

用語	説明
セキュアデバイス	InterSafe SecureDevice 管理ツールで作成されたセキュリティ USB メモリです。
テンプレート	各種製品のセキュリティポリシー(設定)をまとめたものです。各グループ/ユーザーにセキュリティポリシーを付与する際にはこのテンプレートを利用します。
デフォルトテンプレート	InterSafe IRM でユーザーが暗号化する際に、適用されるテンプレートです。
ホスト PC	セキュアデバイス利用時の PC 識別単位の一つです。セキュアデバイス作成時に指定されたグループ/ユーザーで利用する場合にホスト PC となります。パスワード、ウイルス対策ソフトチェック、有効期限に関するチェック以外のアクセス制御は行われません。
ゲスト PC	ホスト PC 以外の PC です。ゲスト PC でセキュアデバイスを利用する場合は、セキュアデバイスに設定されたセキュリティポリシーに沿って動作します。
ホストグループ/ ホストユーザー	セキュアデバイス作成者が指定したグループ/ユーザーです。ホストグループ/ユーザーに該当するユーザーが扱う PC では、セキュアデバイスを利用時にホスト PC として動作します。
自己復号型暗号ファイル	IS Client ログイン中に作成できる暗号化ファイルです。パスワードを付与してセキュリティを高めることができます。
セキュア PDF ファイル	InterSafe SecurePDF の変換機能で変換/暗号化された PDF ファイルです。
ユーザー属性	各ユーザーに付与される InterSafe IRM 独自の属性です。
セキュアファイル	InterSafe IRM のファイル暗号機能で暗号されたファイルです。
アクセス権	セキュアファイルに対する「閲覧」、「暗号解除」、「テンプレート変更」、「有効期限」の許可/禁止等の権限です。

1-2. 製品の特長

情報漏洩対策シリーズ『InterSafe ILP』とは、「重要情報を保護」「外部デバイスへ不正に持出しさせない」「持出し後のファイルを安全に活用する」「送信データの情報漏洩を防止」がオールインワンで可能な情報漏洩対策製品群です。下記 6 つの製品を組み合わせることで環境に合わせた機能を利用することができます。

■各製品と特長

製品名	特長
InterSafe DeviceControl	リムーバブルディスクや光学メディア等の外部デバイスを制御します。 また、ファイル書出しや読み込み等外部デバイスとPC間のファイルの移動についてログを取得します。
InterSafe WorkFlow	InterSafe DeviceControlと組み合わせることで、デバイスの利用を禁止した状態において申請/承認を行うことで、一定期間のデバイス制御解除や特定ファイルの持出しを可能にします。
InterSafe SecureDevice Ultimate	汎用のUSBメモリをパスワードやアクセス制御機能を付加したセキュリティUSBメモリに変換します。
SecurePorter ※InterSafe SecureDevice Ultimate のオプション	セキュアデバイス内のファイルをセキュアデバイス外に持ち出す際、ファイルを暗号化する機能です。暗号化されたファイルはセキュアデバイス内でのみ復号化できます。
InterSafe IRM	ファイルを暗号化し、利用者に応じて閲覧権限や暗号解除権限等を制限することができます。
InterSafe SecurePDF	特定アプリケーションのファイルをセキュリティ機能を付与したPDFファイルに変換します。

1-3. アップデートを実施するには

情報漏洩対策シリーズ『InterSafe ILP』のアップデートは、「ILP Server」、「InterSafe Client」、「ユーザー連携ツール」、「セキュアデバイス」についてそれぞれアップデートを実施する必要があります。



- ◆ ILP Server (Ver2.x) からアップデートする場合
 - 2. ILP Server のアップデート (Ver2.x からのアップデート) をご参照ください。
- ◆ ILP Server (Ver3.x) からアップデートする場合
 - 3. ILP Server のアップデート (Ver3.x からのアップデート) をご参照ください。
- ◆ InterSafe Client をアップデートする場合
 - 4. InterSafe Client のアップデートをご参照ください。
- ◆ セキュアデバイスをアップデートする場合
 - 5. セキュアデバイスのアップデートをご参照ください。
- ◆ ユーザー連携ツールをアップデートする場合
 - ユーザー連携ツールのマニュアルを参照のうえ、旧バージョンのプログラムをアンインストール、新バージョンのプログラムのインストールを行ってください。

注意事項

新機能を利用するには、ILP Server/InterSafe Client の両方をバージョンアップする必要があります。

1-4.バージョンの確認方法

ILP Server の各コンポーネントのバージョンの確認方法を記載します。

データベースバージョンの確認方法

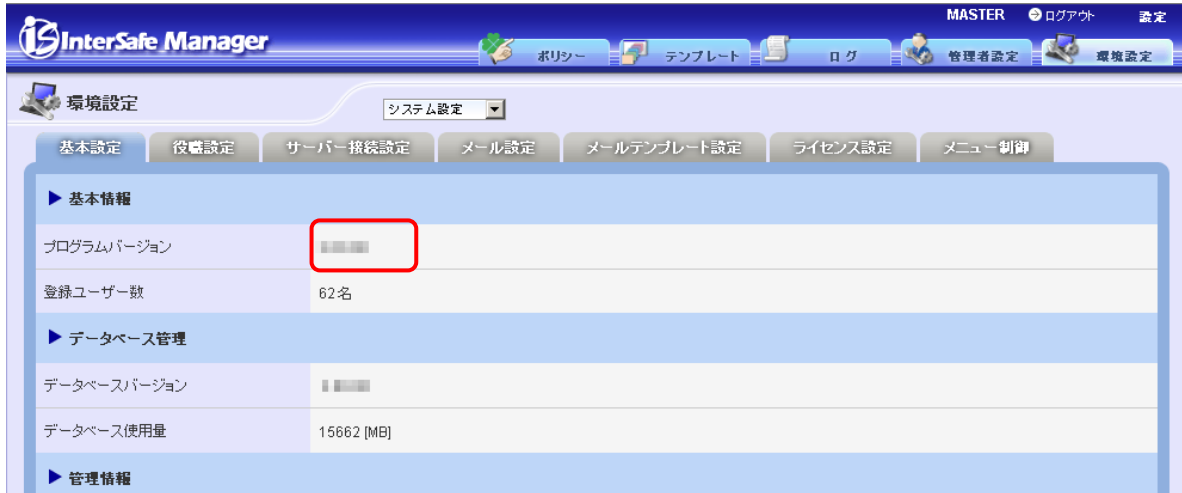
- 1) InterSafe Manager にログインし、[環境設定]-[基本設定]の画面を表示し、「データベースバージョン」で確認できます。



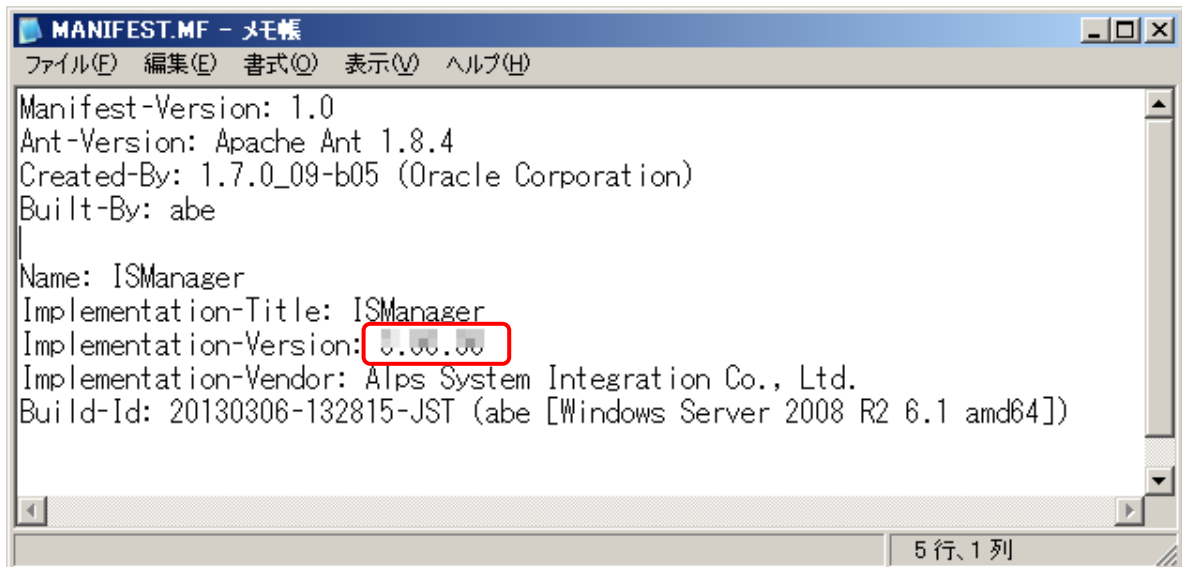
InterSafe Manager バージョンの確認方法

InterSafe Manager のバージョン確認方法は 2 つあります。

- 1) InterSafe Manager にログインし、[環境設定]-[基本設定]の画面を表示し、「プログラムバージョン」で確認できます。



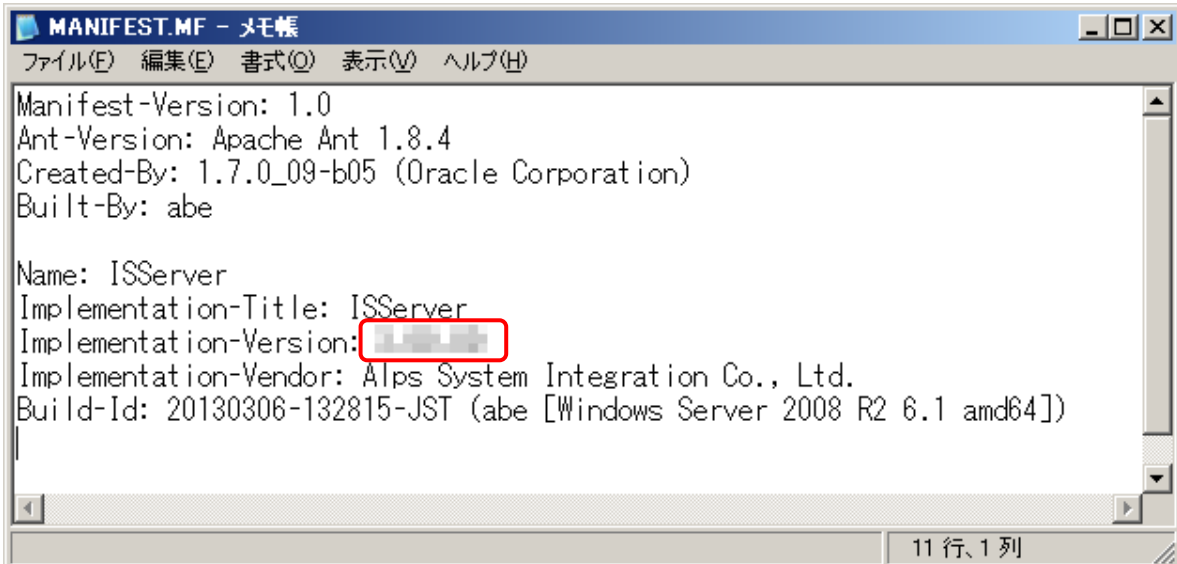
- 2) また、設定ファイルからでも確認可能です。
テキストエディタで下記ファイルを開きます。
{Tomcat インストールフォルダー}¥webapps¥ISManager¥META-INFMANIFEST.MF



InterSafe Server バージョンの確認方法

- 1) テキストエディタで下記ファイルを開きます。

{Tomcat インストールフォルダー}¥webapps¥ISServer¥META-INF¥MANIFEST.MF



```

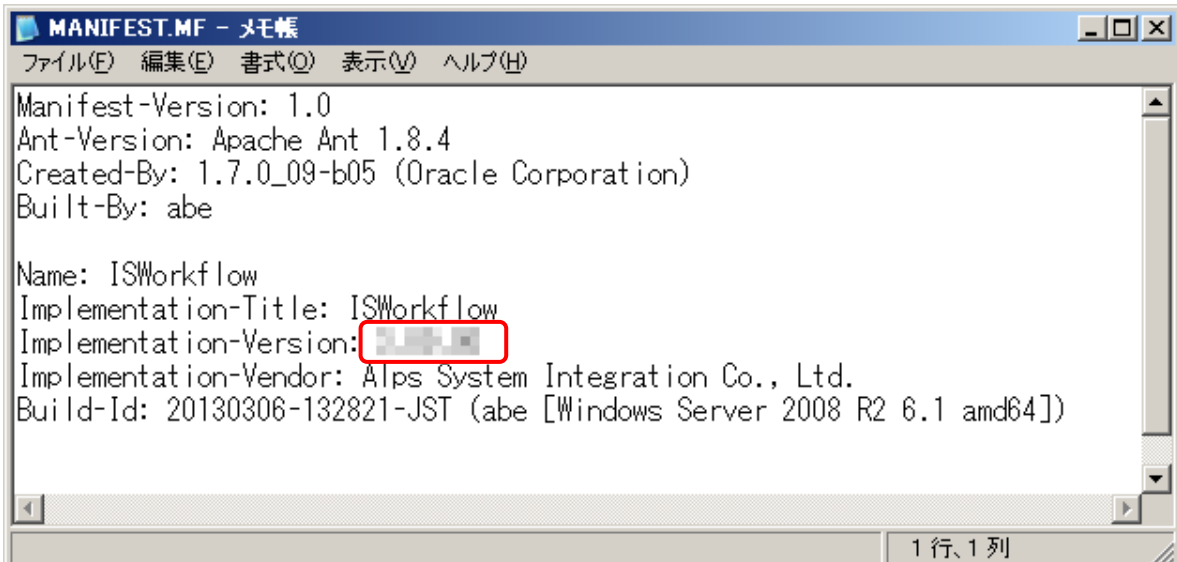
Manifest-Version: 1.0
Ant-Version: Apache Ant 1.8.4
Created-By: 1.7.0_09-b05 (Oracle Corporation)
Built-By: abe

Name: ISServer
Implementation-Title: ISServer
Implementation-Version: 
Implementation-Vendor: Alps System Integration Co., Ltd.
Build-Id: 20130306-132815-JST (abe [Windows Server 2008 R2 6.1 amd64])
    
```

InterSafe Workflow バージョンの確認方法

- 1) テキストエディタで下記ファイルを開きます。

{Tomcat インストールフォルダー}¥webapps¥ISWorkflow¥META-INF¥MANIFEST.MF



```

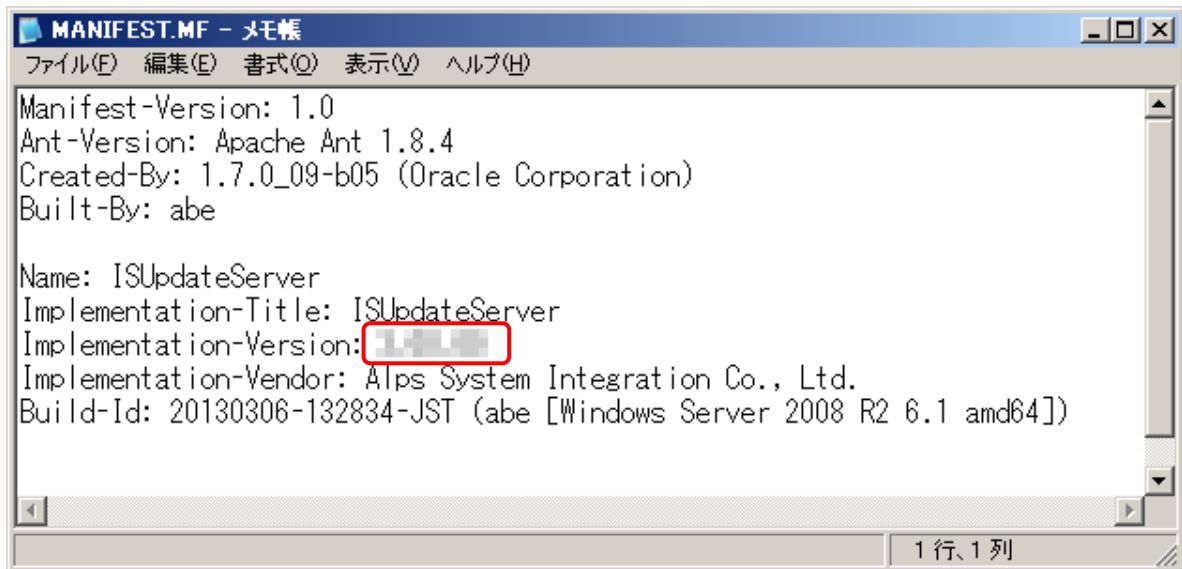
Manifest-Version: 1.0
Ant-Version: Apache Ant 1.8.4
Created-By: 1.7.0_09-b05 (Oracle Corporation)
Built-By: abe

Name: ISWorkflow
Implementation-Title: ISWorkflow
Implementation-Version: 
Implementation-Vendor: Alps System Integration Co., Ltd.
Build-Id: 20130306-132821-JST (abe [Windows Server 2008 R2 6.1 amd64])
    
```

InterSafe UpdateServer バージョンの確認方法

- 1) テキストエディタで下記ファイルを開きます。

{Tomcat インストールフォルダー}¥webapps¥ISUpdateServer¥META-INF¥MANIFEST.MF



2

2. ILP Server のアップデート(Ver2.x からのアップデート)

ILP Server のアップデート方法について記載します。

※本章では、Ver2.x からのアップデートについて記載しています。

Ver3.x からのアップデートは、3. ILP Server のアップデート(Ver3.x からのアップデート) をご参照ください。

※Ver1.x からのアップデートは、一度 Ver3.x にアップデート後に実施してください。

注意事項

以降の手順で旧バージョンをインストールした際の下記の設定情報の確認が必要になりますので
事前に確認してください。

【必須】

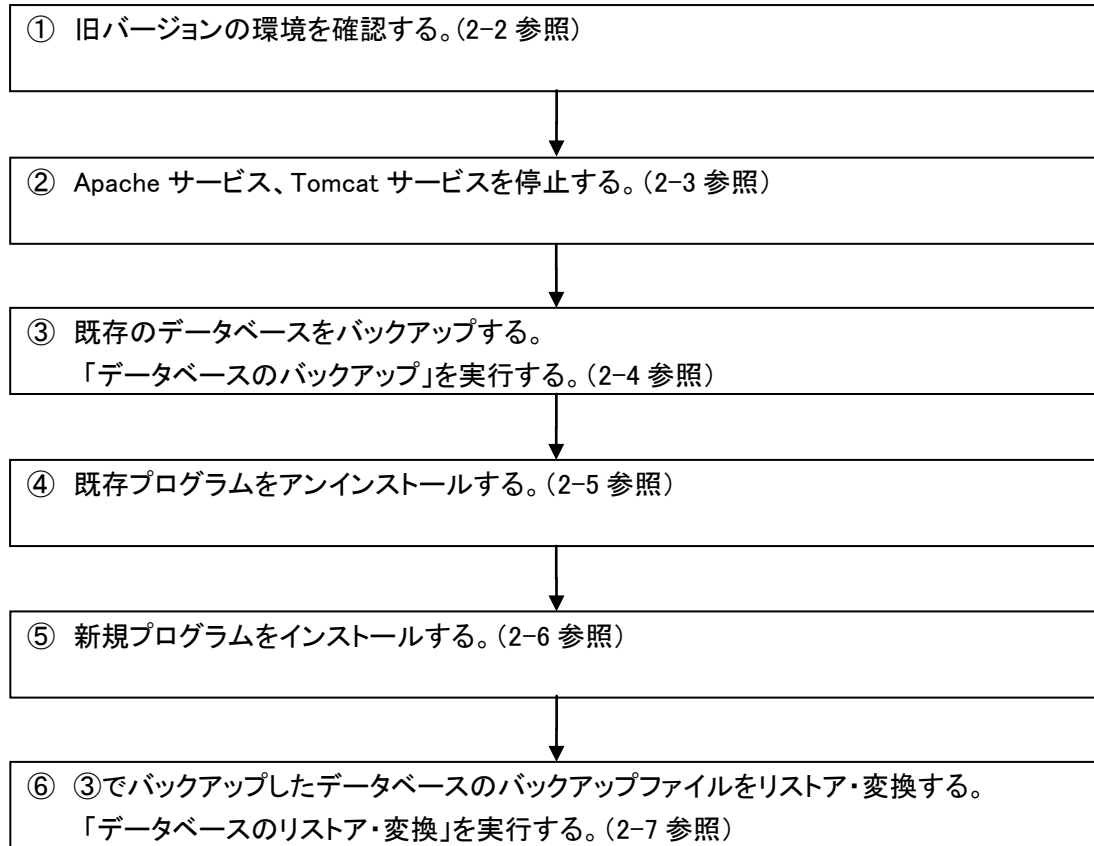
- ・ PostgreSQL のパスワード

【旧バージョンインストールの際、デフォルトから変更している場合】

- ・ PostgreSQL インストールパス、ポート

2-1. ILP Serverアップデートの流れ(Ver2.xからのアップデート)

◆ILP Server アップデートの流れ



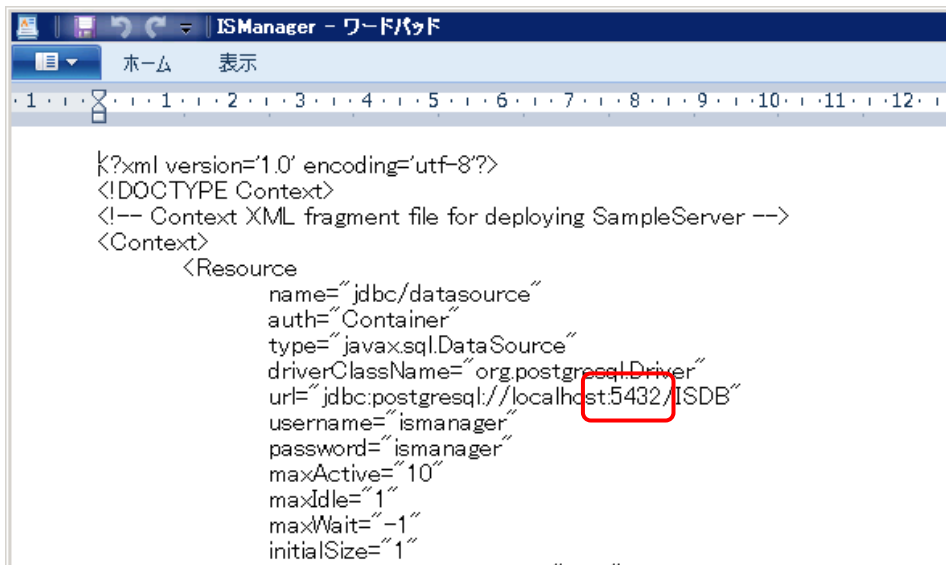
2-2. 旧バージョンの環境を確認する

旧バージョンのデータベースをバックアップするにあたり、旧バージョンの環境を確認します。

- 1) PostgreSQL のパスワード、インストールパス、ポート番号を確認します。
(デフォルトインストールパスは、C:\Program Files\PostgreSQL\9.0、ポート番号は、5432)



InterSafe ILP で使用している PostgreSQL のポート番号は、
(Tomcat 導入先)\conf\Catalina\localhost(*)にある ISManager.xml をテキストエディタで開き、
下記にて確認できます。
※デフォルトでは、C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 7.0\conf\Catalina\localhost



```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<!DOCTYPE Context>
<!-- Context XML fragment file for deploying SampleServer -->
<Context>
  <Resource
    name="jdbc/datasource"
    auth="Container"
    type="javax.sql.DataSource"
    driverClassName="org.postgresql.Driver"
    url="jdbc:postgresql://localhost:5432/ISDB"
    username="ismanager"
    password="ismanager"
    maxActive="10"
    maxIdle="1"
    maxWait="-1"
    initialSize="1"
  />
</Context>
    
```

2-3. Apacheサービス、Tomcatサービスを停止する

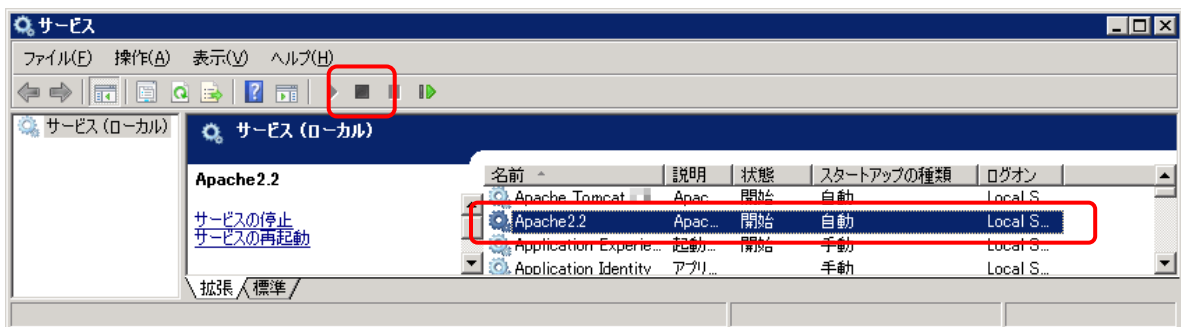
ILP Server に使用されるサービスを停止します。



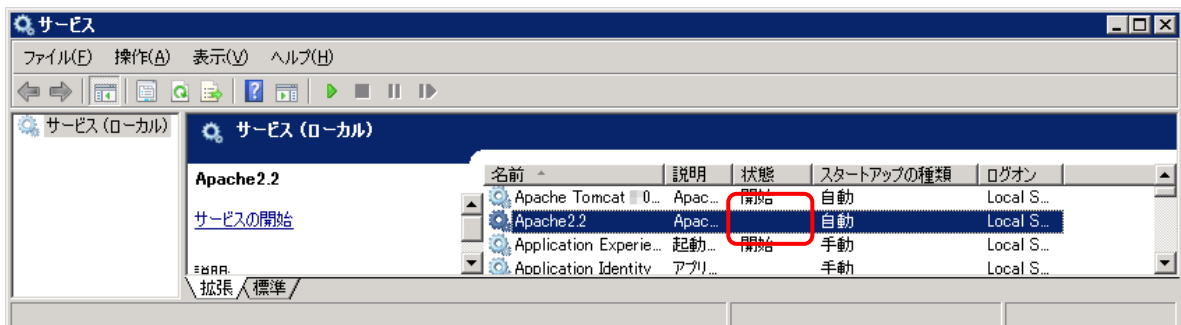
Apache サービス、Tomcat サービスの順番で停止してください。(開始する場合は逆の順番になります)

Apache サービスの停止

- 1) [スタート]—[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択し、「Apache2.2」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



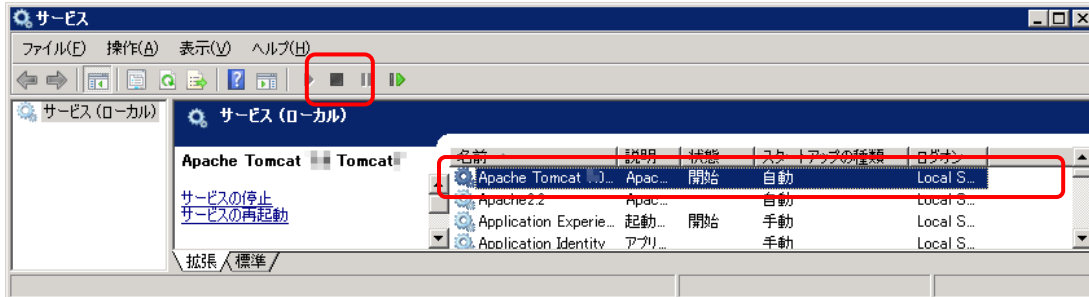
- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。



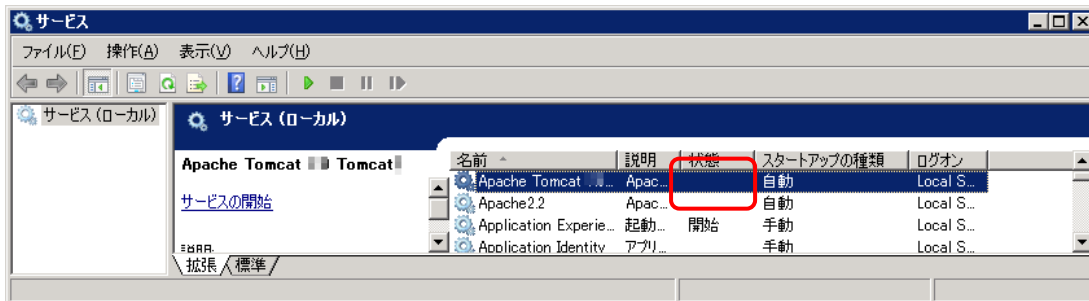
続けて、Tomcat サービスを停止します。

Tomcat サービスの停止

- 1) [スタート]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[サービス]を選択し、「Apache Tomcat7」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。

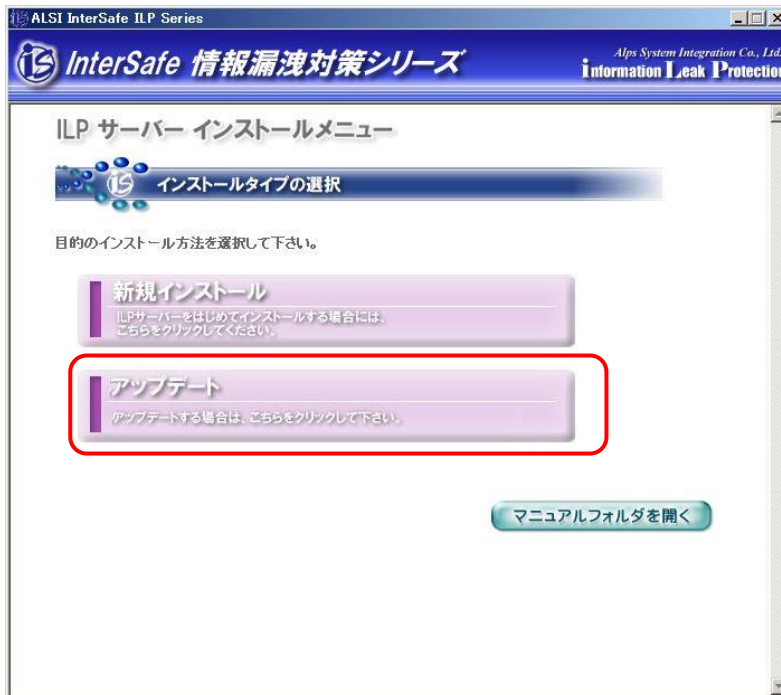


2-4. データベースのバックアップ

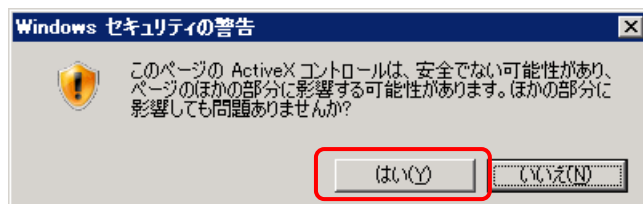
既存環境(旧バージョン)のデータベースをバックアップします。

※利用環境によってバックアップには時間がかかる場合がありますのでご注意ください。

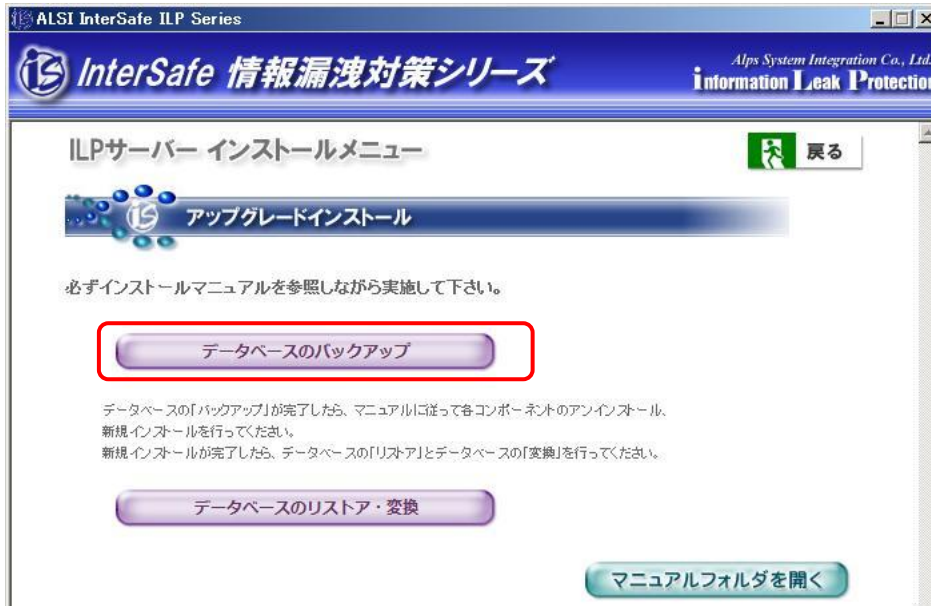
- 1) インストールメディアを起動すると、インストールメニューが表示されます。(起動しない場合は、「Autorun」フォルダー内の「Autorun.exe」を実行してください)「アップデート」をクリックします。



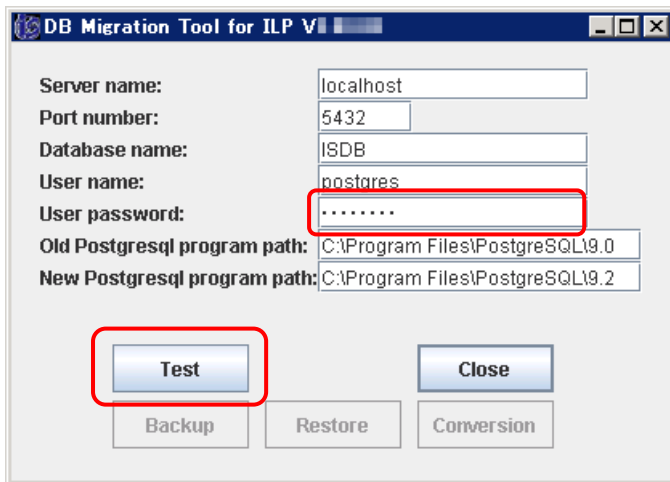
下記メッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして下さい。



- 2) [データベースのバックアップ]を実行してください。



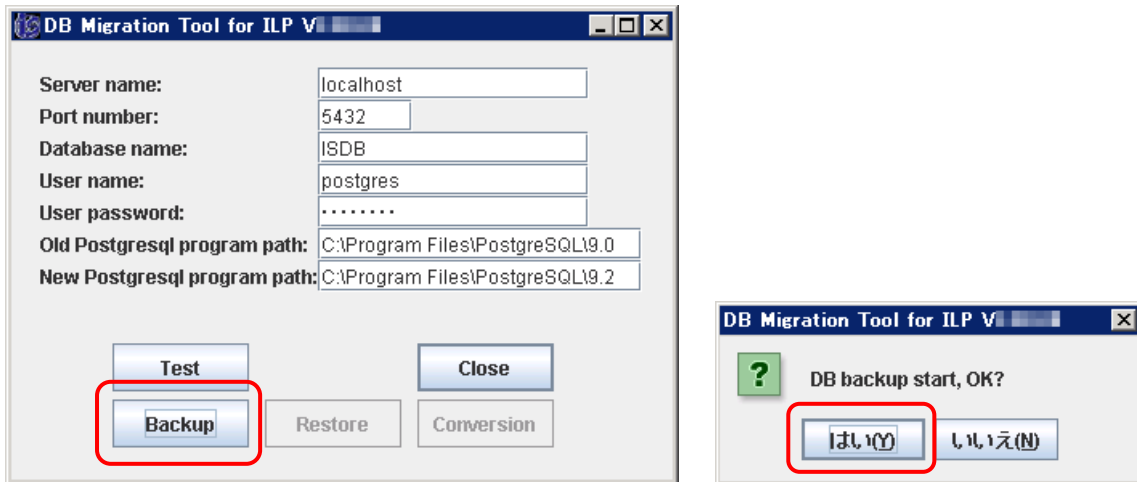
- 3) 下記画面で、[User password]に PostgreSQL のパスワードを入力し、[Test]をクリックします。
(ポート、PostgreSQL のインストール先が異なる場合は、合わせて設定してください。)



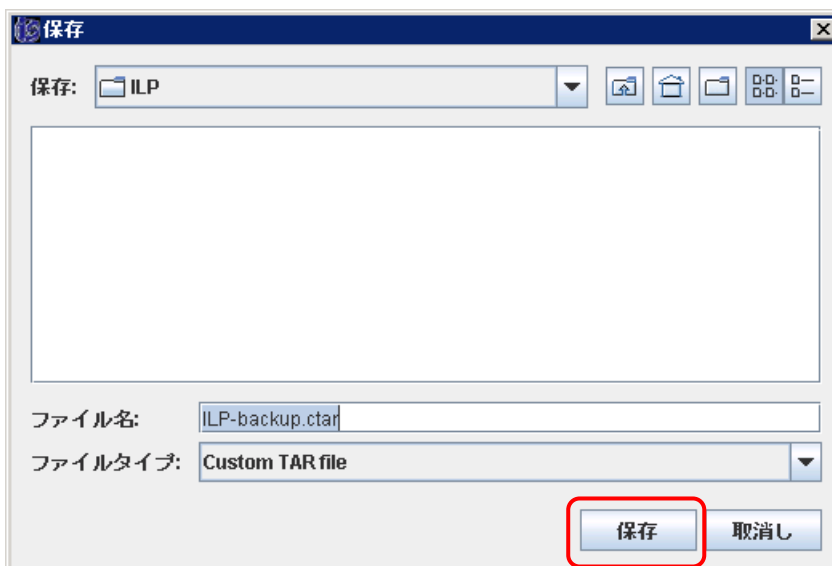
- 4) 下記メッセージが表示されます。[了解]をクリックします。



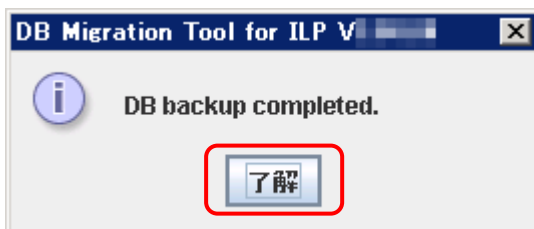
- 5) [Backup]をクリックし、実行してよければ[はい]をクリックします。



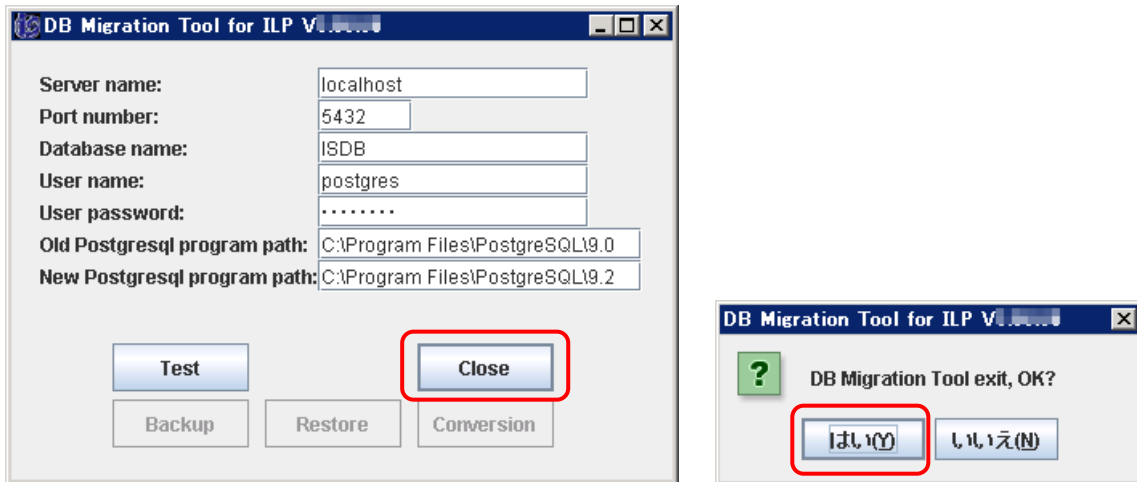
- 6) 保存先を指定して、[保存]をクリックします。



- 7) 処理が完了したら、[了解]をクリックします。(処理は環境によっては数分間かかる可能性があります)



- 8) [Close]をクリックし、ツールを終了してよければ、[はい]をクリックします。



以上でデータベースのバックアップは完了です。
「2-5 既存プログラムのアンインストール」に進んでください。

2-5. 既存プログラムのアンインストール

既存プログラムのアンインストールを行います。



アンインストール手順の詳細は、旧バージョンのインストールマニュアル「4. ILP Server のアンインストール」を参照してください。

2-6. 新規プログラムのインストール

新規プログラムのインストールを行います。



インストール手順の詳細は、新バージョンのインストールマニュアル「2.ILP Server のインストール」を参照してください。



インストールマニュアル「2.ILP Server のインストール」の手順では最後に再起動を促されますが、再起動せず、本書「2-7 データベースのリストア・変換」に進んでください。

もし再起動した場合には、「2-7 データベースのリストア・変換」の実施時に Apache、Tomcat のサービス停止処理を行ってください。

2-7. データベースのリストア・変換

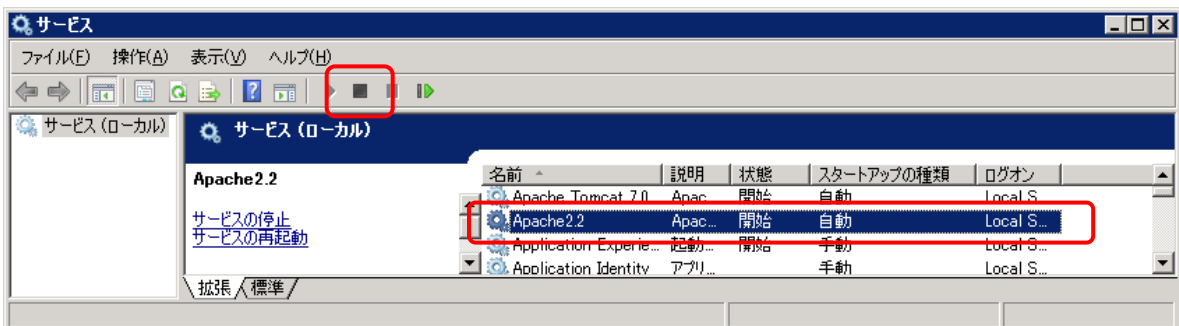
2-4 データベースのバックアップでバックアップしたデータベースのリストア・変換を実施します。

※利用環境によってリストア・変換には時間がかかる場合がありますのでご注意ください。

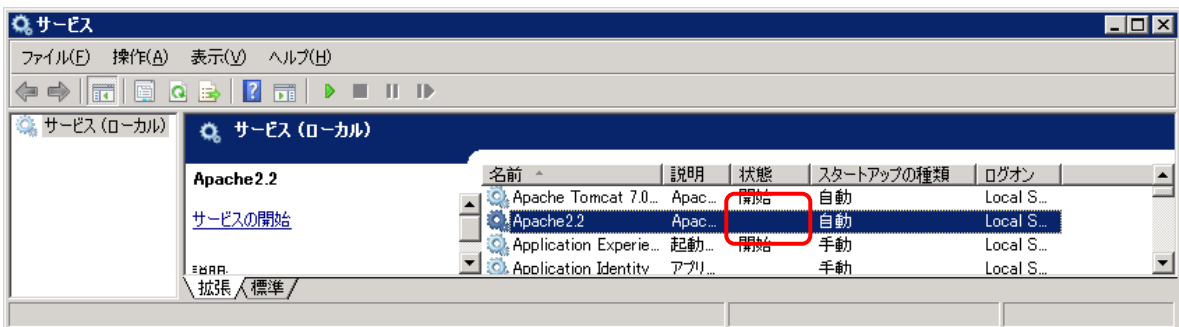
ILP Server に使用されるサービスを停止します。既に停止の場合は、読み飛ばして次に進んでください。

Apache サービスの停止

- 1) [スタート]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[サービス]を選択し、「Apache2.2」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。



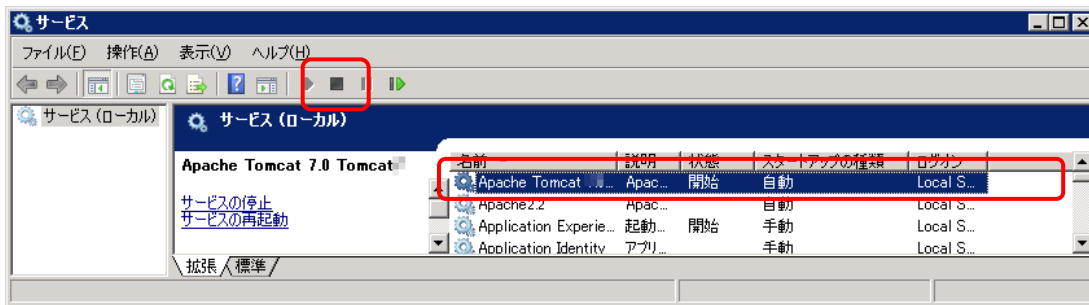
続けて、Tomcat サービスを停止します。

Tomcat サービスの停止

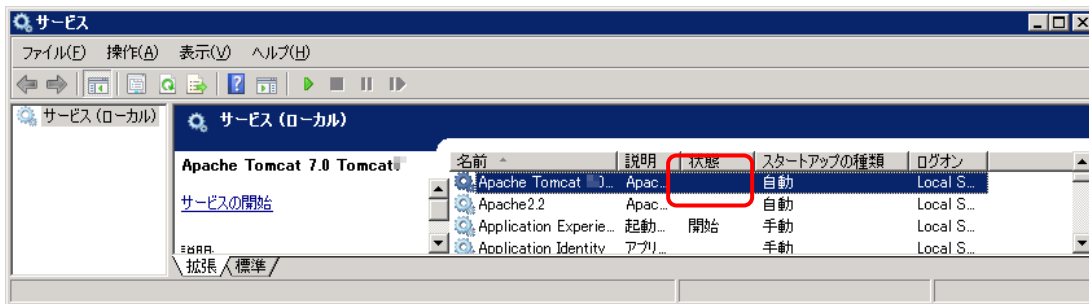
データベースのリストア処理の前に Tomcat サービスの停止を行います。

※既に Tomcat が停止している場合、本手順は不要です。

- 1) [スタート]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[サービス]を選択し、「Apache Tomcat 7」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。

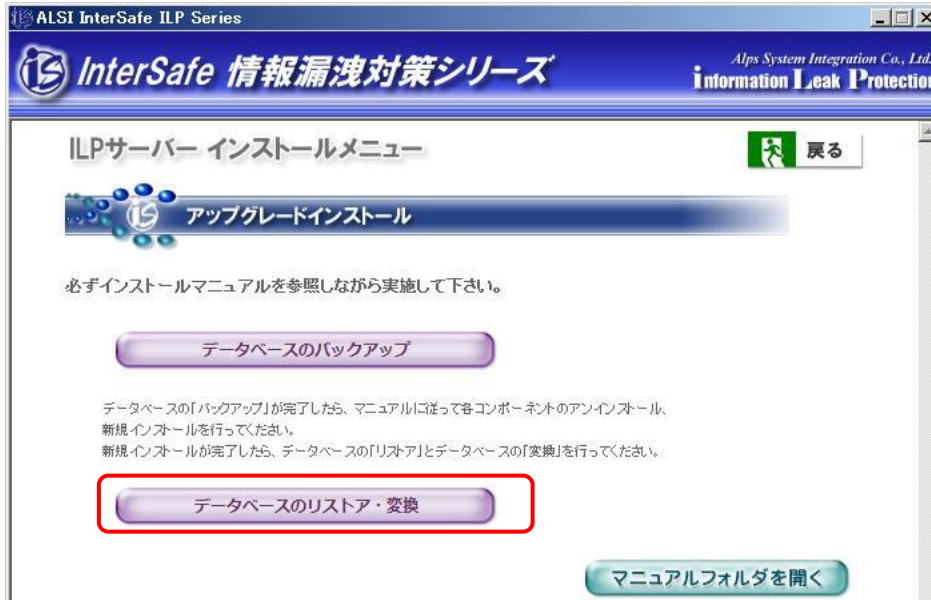


引き続き、データベースのリストアを実施してください。

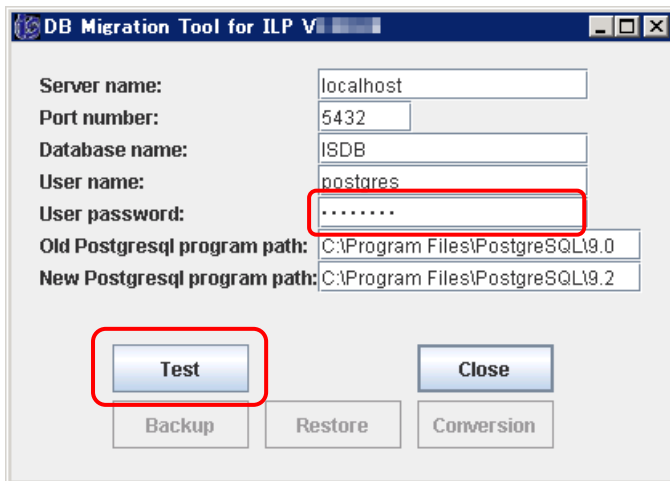
データベースのリストア・変換

新バージョンの環境に旧バージョンのデータベースをリストア、(新バージョンに)変換します。

- 1) [データベースのリストア・変換]を実行してください。



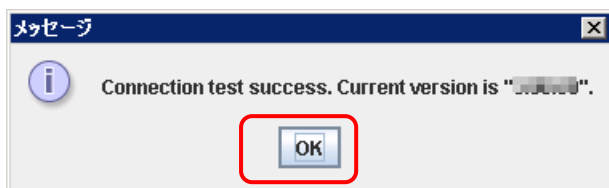
- 2) 下記画面で、[User password]に PostgreSQL のパスワードを入力し、[Test]をクリックします。



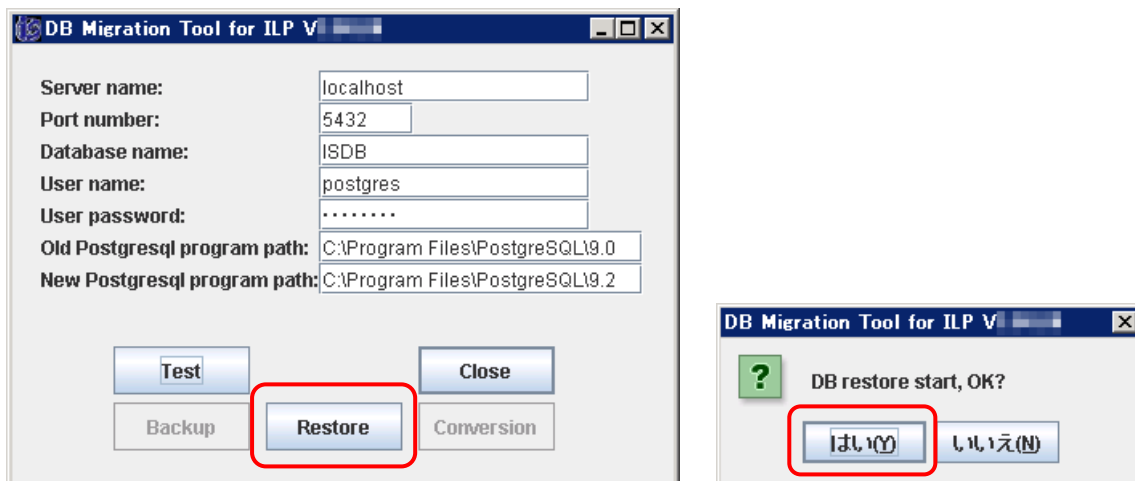
⚠️ 注意事項

ポート、Postgresql のパスは、デフォルト値 (5432、C:\Program Files\PostgreSQL\9.0) が設定されています。インストール先が異なる場合は、環境に合わせて入力設定してください。

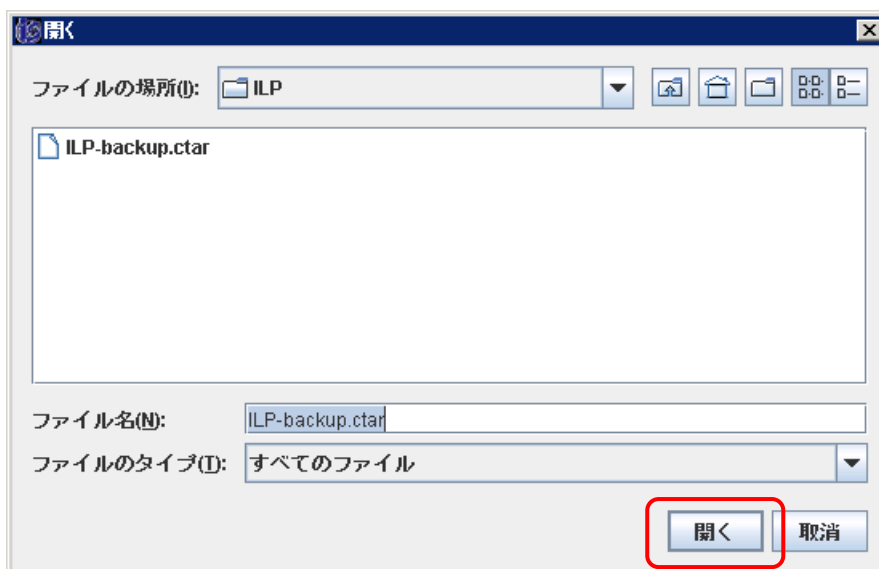
- 3) 下記メッセージが表示されます。[OK]をクリックします。



- 4) [Restore]をクリックし、実行してよければ[はい]をクリックします。



- 5) バックアップファイルを選択して、[開く]をクリックします。

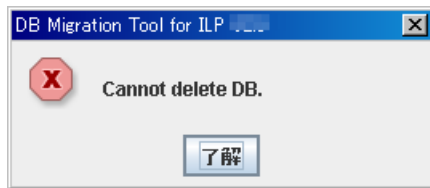


- 6) 処理が完了したら、[OK]をクリックします。

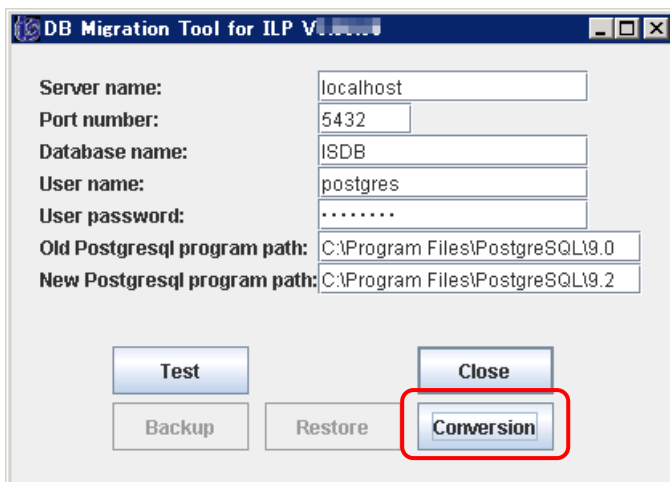


! 注意事項

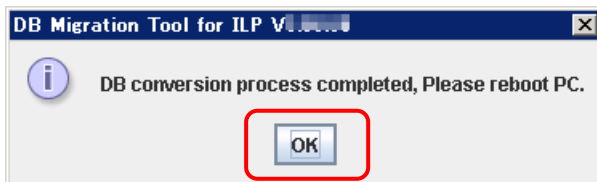
データベースのリストア処理の前に Tomcat サービスの停止を行っていない場合、下記エラーメッセージが表示されます。この場合は、前述の Tomcat サービスの停止を行ってください。



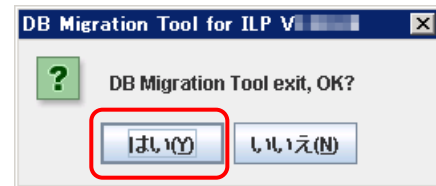
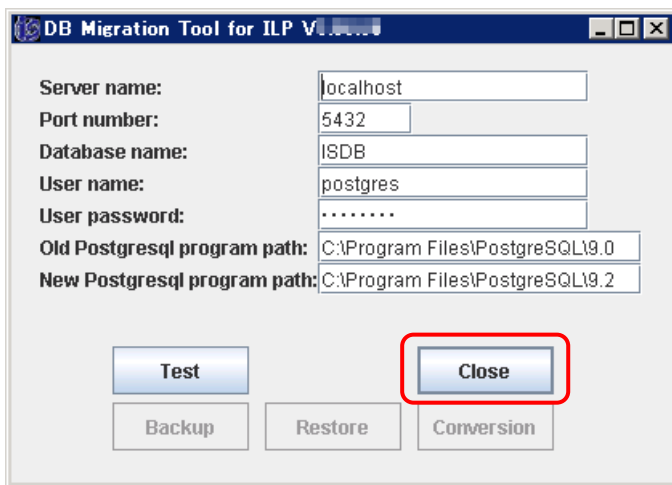
- 7) [Conversion]をクリックします。



- 8) データベースの変換が完了したら、[OK]をクリックします。



- 9) [Close]をクリックし、終了してよければ、[はい]をクリックします。



- 10) PC を再起動してください。

以上で ILP サーバーの設定は完了です。



3. ILP Server のアップデート(Ver3.x からのアップデート)

ILP Server のパッチ適用方法について記載します。

※本章では、Ver3.x からのアップデートについて記載しています。

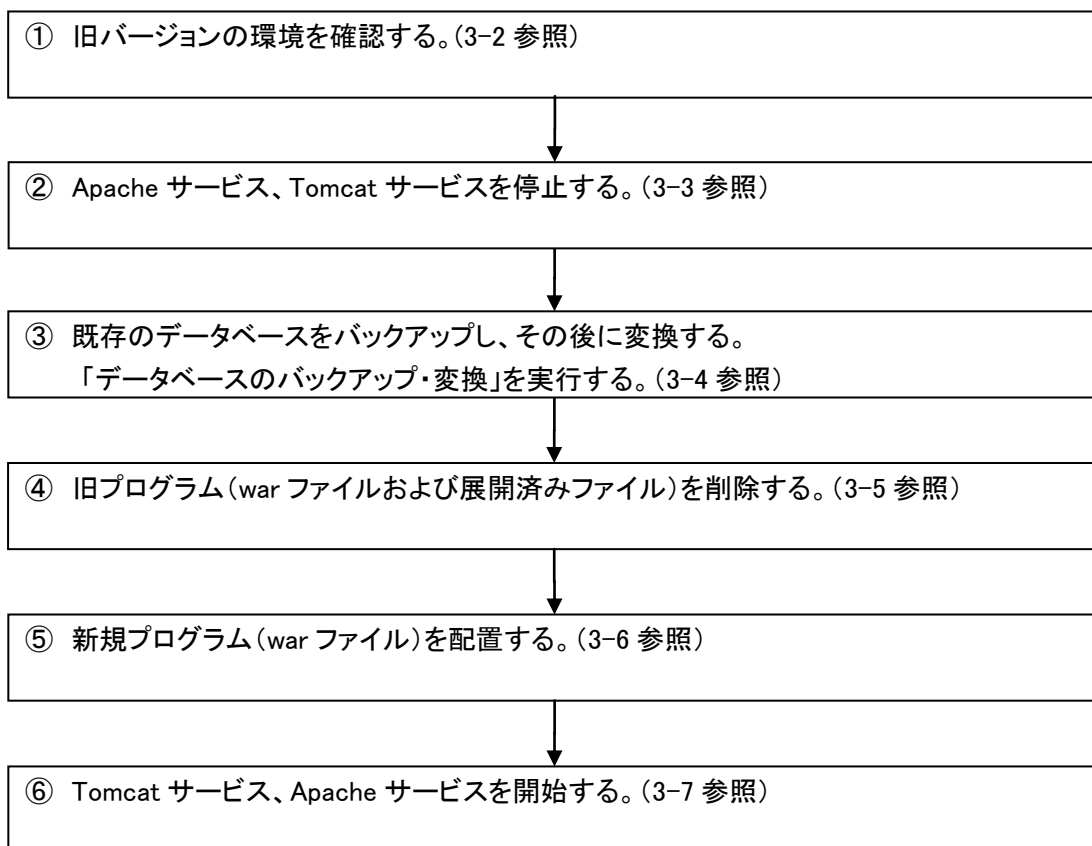
Ver2.x からのアップデートは、2. ILP Server のアップデート(Ver2.x からのアップデート) をご参照ください。

3-1. ILP Serverアップデートの流れ(Ver3.xからのアップデート)



V3.xからのアップデートではデータベースのリストア作業は不要です。

◆ILP Server アップデート(パッチ適用)の流れ



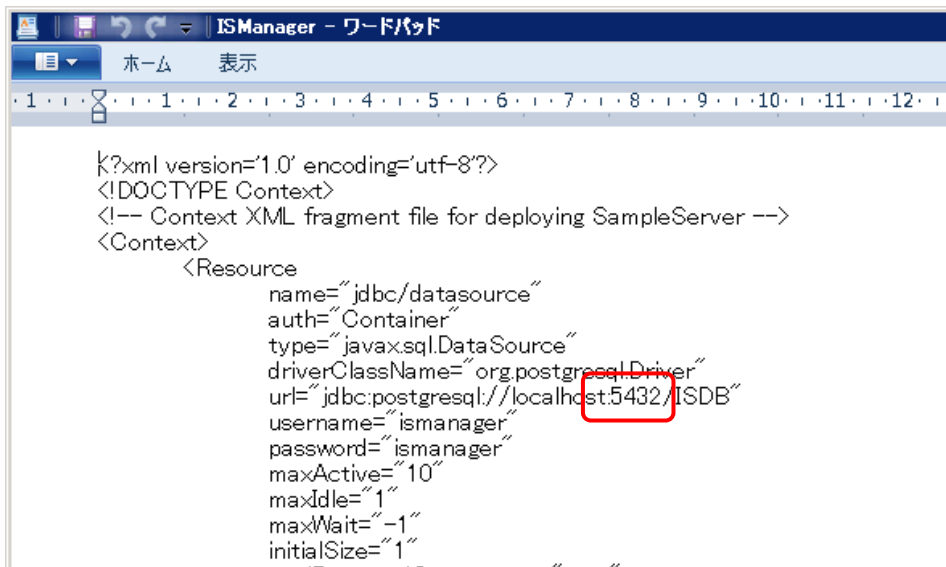
3-2. 旧バージョンの環境を確認する

旧バージョンのデータベースをバックアップするにあたり、旧バージョンの環境を確認します。

- 1) PostgreSQL のパスワード、インストールパス、ポート番号を確認します。
(デフォルトインストールパスは、C:\Program Files\PostgreSQL\9.2、ポート番号は、5432)



InterSafe ILP で使用している PostgreSQL のポート番号は、
(Tomcat 導入先)\conf\Catalina\localhost(*)にある ISManager.xml をテキストエディタで開き、
下記にて確認できます。
※デフォルトでは、C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 7.0\conf\Catalina\localhost



```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<!DOCTYPE Context>
<!-- Context XML fragment file for deploying SampleServer -->
<Context>
  <Resource
    name="jdbc/datasource"
    auth="Container"
    type="javax.sql.DataSource"
    driverClassName="org.postgresql.Driver"
    url="jdbc:postgresql://localhost:5432/ISDB"
    username="ismanager"
    password="ismanager"
    maxActive="10"
    maxIdle="1"
    maxWait="-1"
    initialSize="1"
  />
</Context>
    
```


3-3. Apacheサービス、Tomcatサービスを停止する

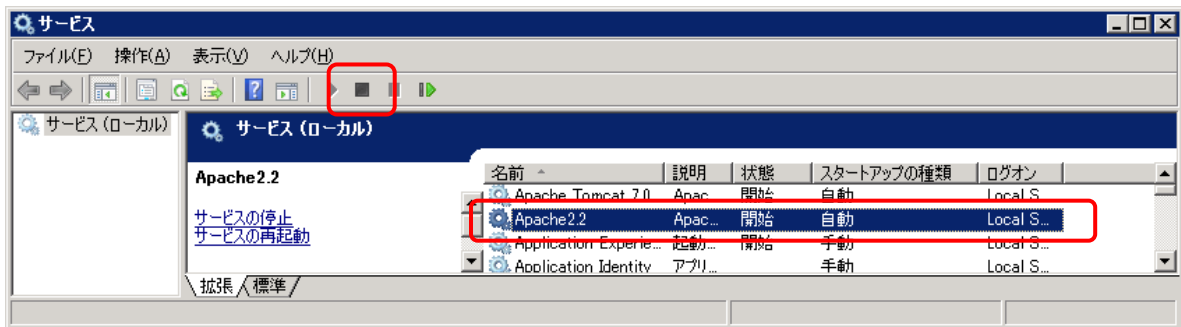
ILP Server に使用されるサービスを停止します。



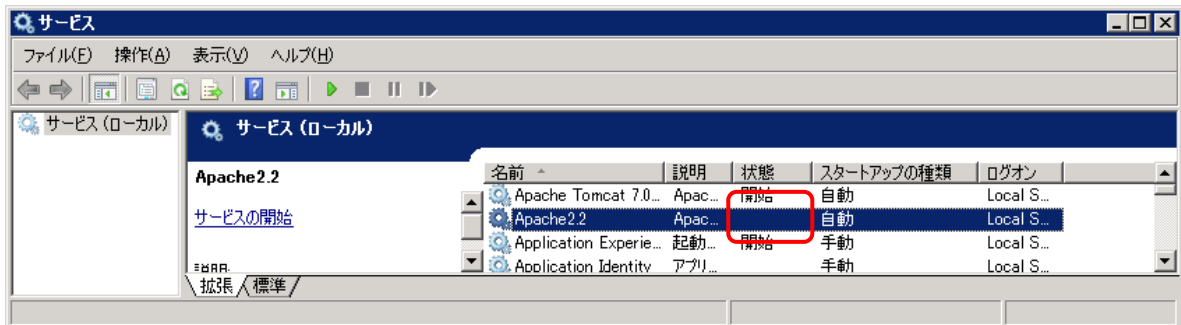
Apache サービス、Tomcat サービスの順番で停止してください。(開始する場合は逆の順番になります)

Apache サービスの停止

- 1) [スタート]—[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択し、「Apache2.2」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



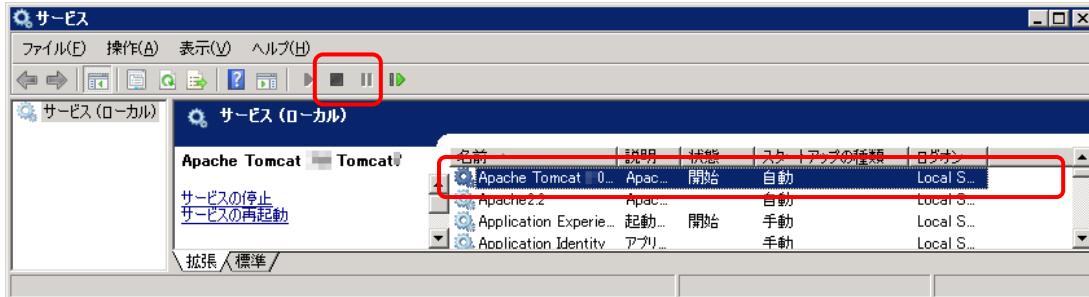
- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。



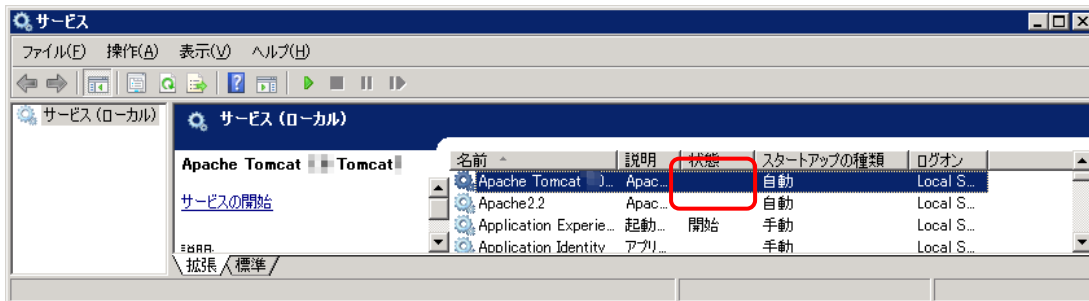
続けて、Tomcat サービスを停止します。

Tomcat サービスの停止

- 1) [スタート]—[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択し、「Apache Tomcat7」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。



以上で Apache サービス、Tomcat サービスの停止は完了です。
引き続き、データベースのバックアップ・変換を実施してください。

3-4. データベースのバックアップ・変換

既存環境のデータベースをバックアップ、新しいデータベースに変換します。

通常は、3-4-1 マイグレーションツールによるバックアップ・変換手順 を実施してください。

利用環境によって時間がかかる場合のみ、3-4-2 フォルダコピーによるバックアップ・変換手順 を実施してください。

※ 3-4-2 フォルダコピーによるバックアップ・変換手順の方が作業時間が短縮できますが、手順を十分に確認のうえ実施してください。



マイグレーションツールを使用した場合の時間の目安を記載します。

※環境によりしますので、あくまで目安としてください。

DB容量	マイグレーションツール	フォルダコピー
10GB	約20分	約5分
100GB	約3時間10分	約1時間
500GB	約14時間30分	約3時間10分

<PC 情報>

CPU : Intel® Core™ i3-2120 CPU @ 3.30GHz

Memory : 8GB

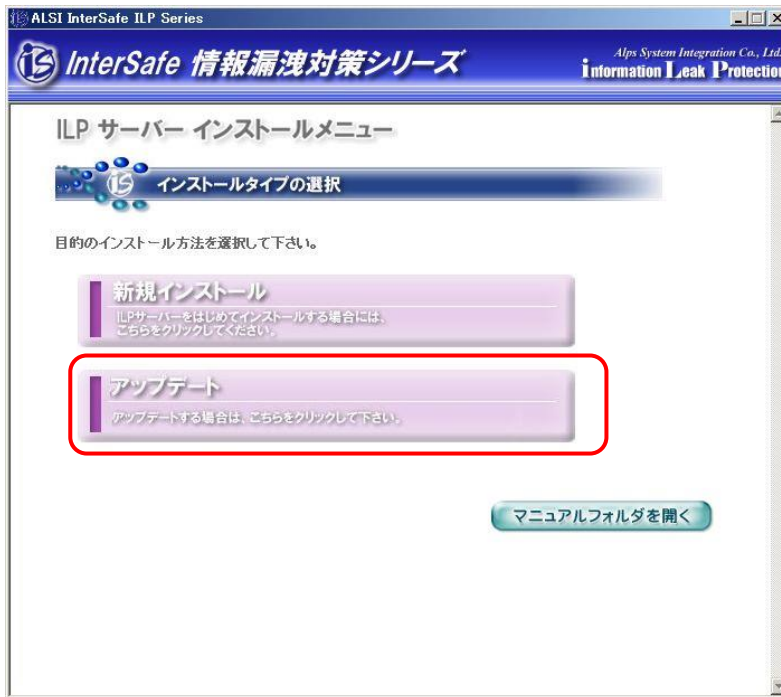
HDD : 500GB

OS : WindowsServer 2008 R2 SP1

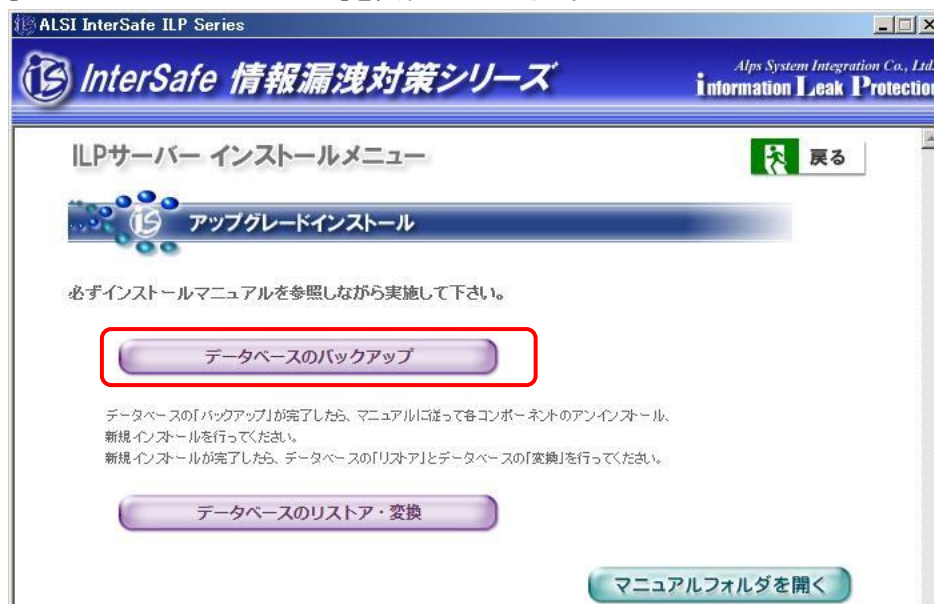
3-4-1 マイグレーションツールによるバックアップ・変換手順

データベースのバックアップ

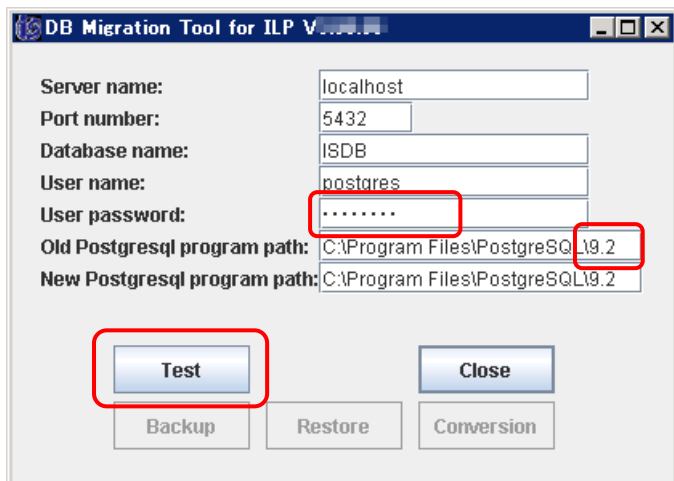
- 1) インストールメディアを起動すると、インストールメニューが表示されます。起動しない場合は、「Autorun」フォルダ内の「Autorun.exe」を実行してください。「アップデート」をクリックします。



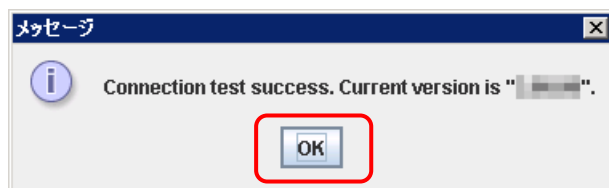
- 2) [データベースのバックアップ]を実行してください。



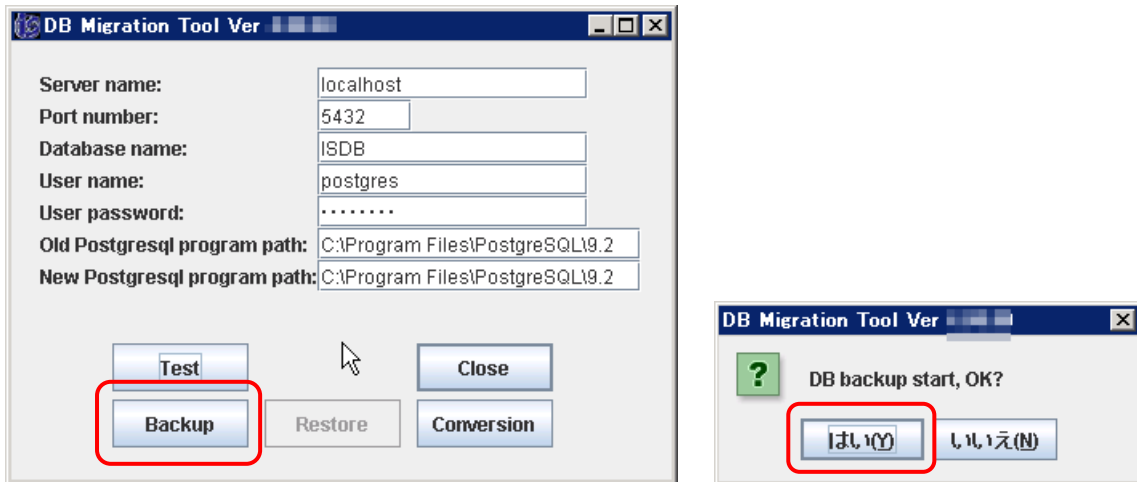
- 3) アップデートツール画面で、[User password]に PostgreSQL のパスワードを入力し、[Test]をクリックします。
 (ポート、PostgreSQL のインストール先が異なる場合は、合わせて設定してください。)
 ※Old PostgreSQL Program path のパスが 9.0 の表示の場合は、9.2 に変更してください。



- 4) 下記メッセージが表示されます。[了解]をクリックします。

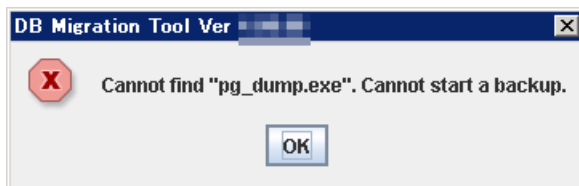


- 5) [Backup]をクリックし、実行してよければ[はい]をクリックします。

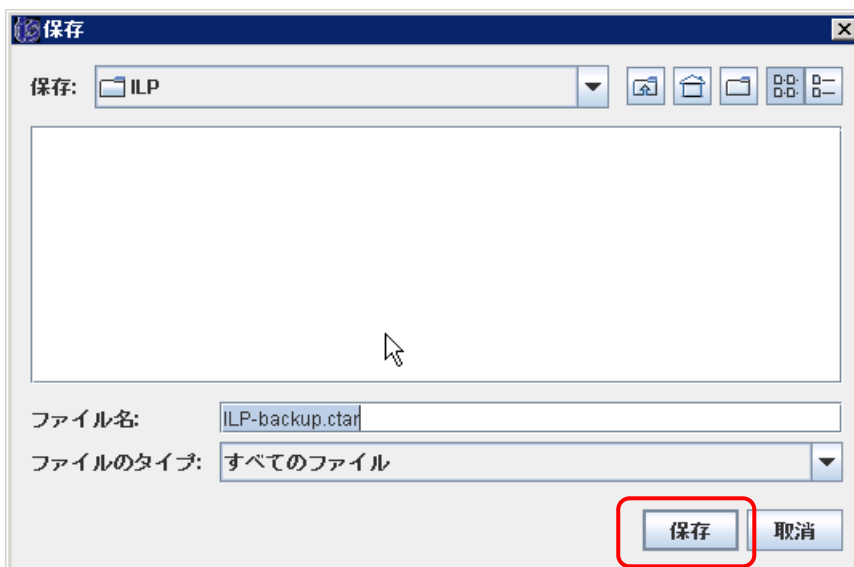


⚠ 注意事項

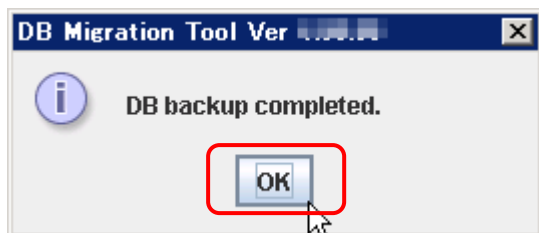
Old PostgreSQL Program path のパスが正しくない場合は、下記のようなメッセージが表示されます。
この場合は、Old PostgreSQL Program path のパスを確認ください。



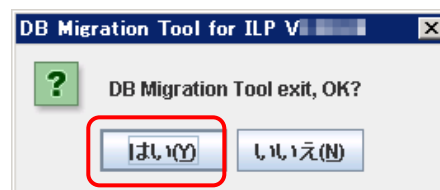
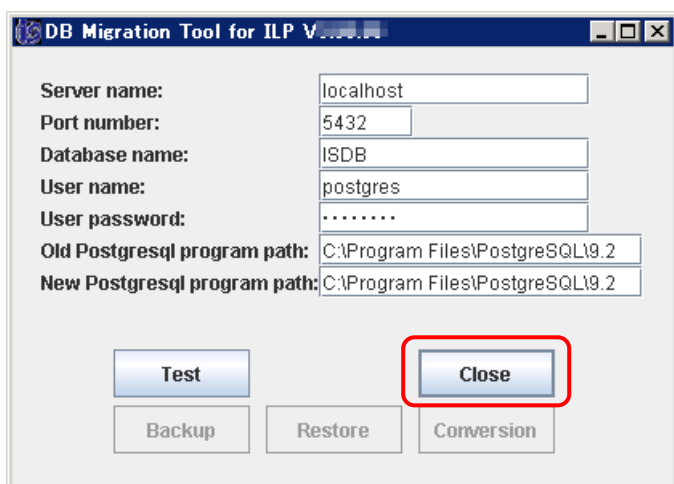
- 6) 保存先を指定して、[保存]をクリックします。



- 7) 処理が完了したら、[了解]をクリックします。(処理は環境によっては数分間かかる可能性があります)



- 8) [Close]をクリックし、ツールを終了してよければ、[はい]をクリックします。

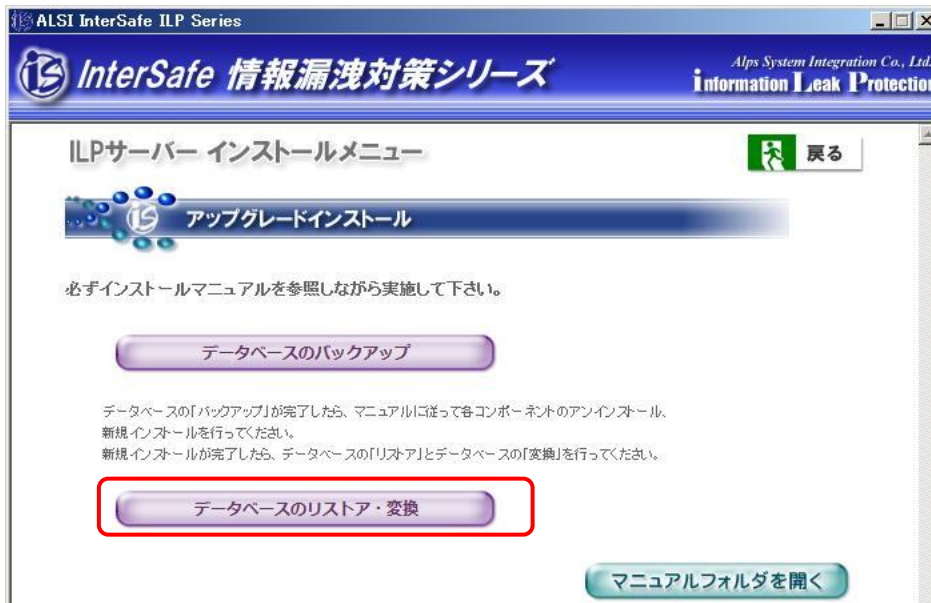


以上でデータベースのバックアップは完了です。
引き続き、データベースの変換を実施してください。

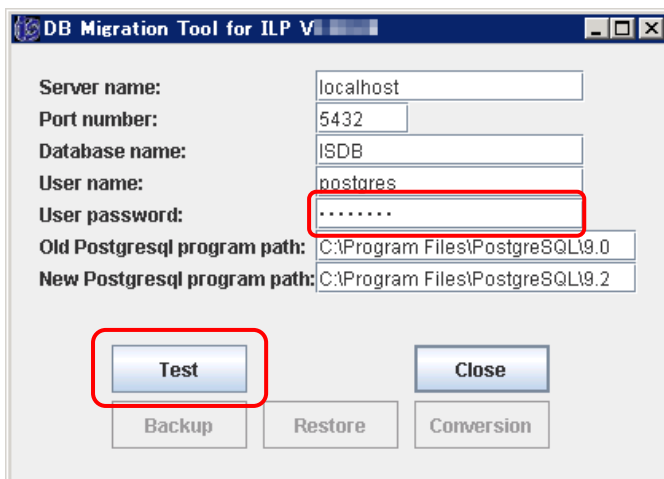
データベースの変換

既存環境(Ver3.xx.xx)のデータベースを新バージョンのデータベースに変換します。

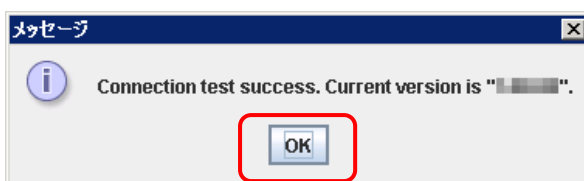
- 1) [データベースのリストア・変換]を実行してください。



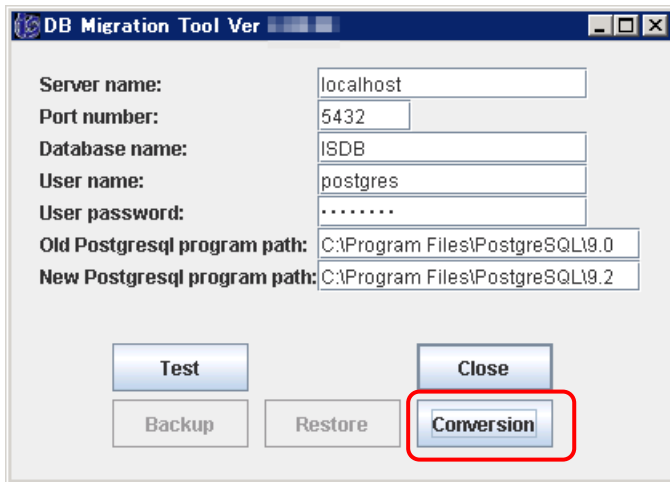
- 2) アップデートツール画面で、[User password]に PostgreSQL のパスワードを入力し、[Test]をクリックします。



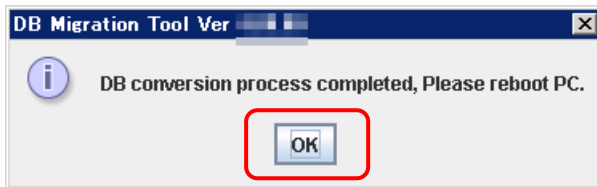
- 3) 下記メッセージが表示されます。[OK]をクリックします。



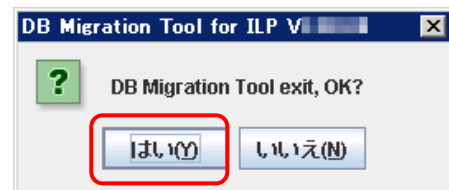
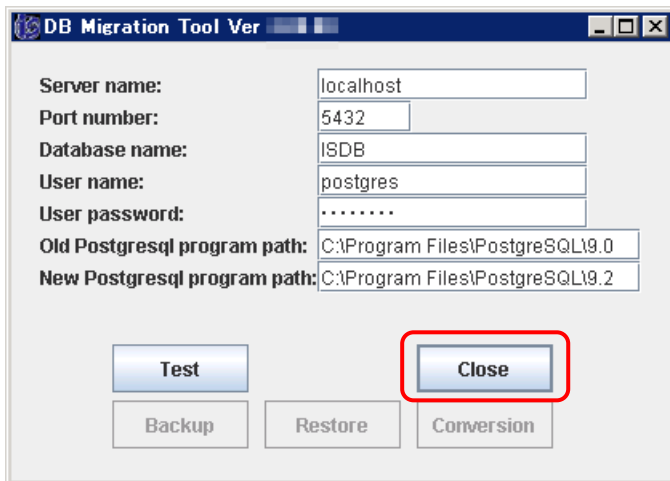
- 4) [Conversion]をクリックします。



- 5) データベースの変換が完了したら、[OK]をクリックします。



- 6) [Close]をクリックし、ツールを終了してよければ、[はい]をクリックします。



以上でデータベースのバックアップ・変換は完了です。

引き続き、「3-5 旧プログラム(.war ファイル及び展開済みファイル)と work フォルダを削除する」に進んでください。

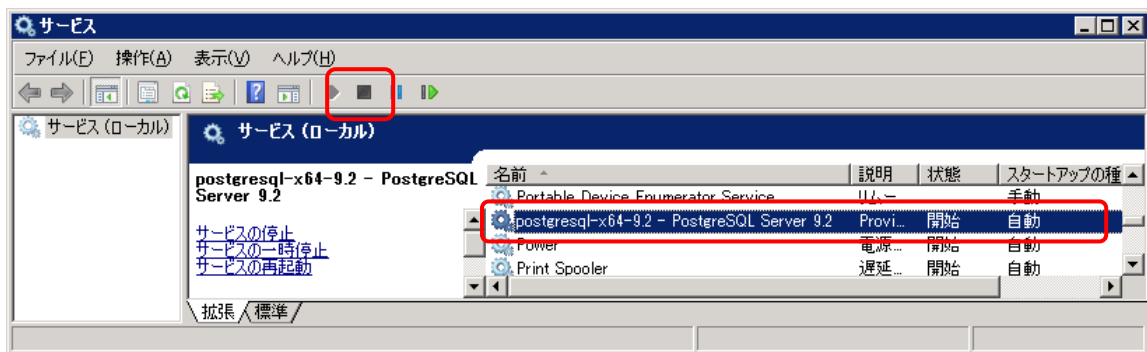
3-4-2 フォルダコピーによるバックアップ・変換手順

3-4-1 マイグレーションツールによるバックアップ・変換手順 を実施済みの場合には、本作業は不要です。

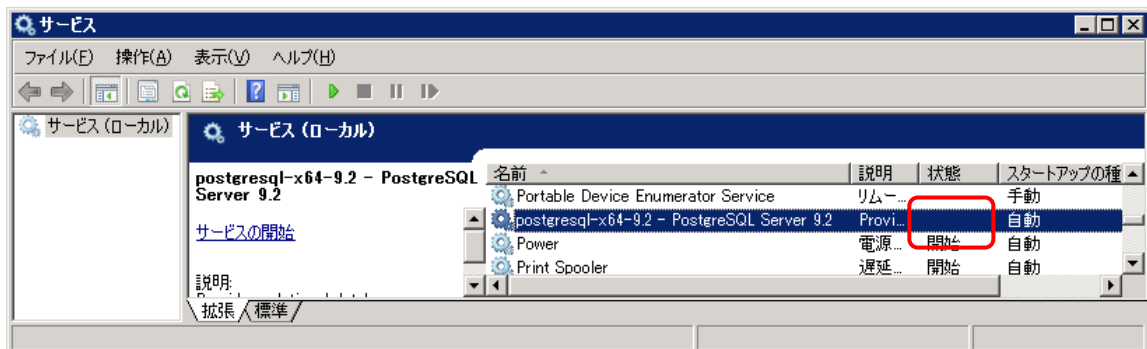
3-5 旧プログラム(.war ファイル及び展開済みファイル)と work フォルダを削除する に進んでください。

PostgreSQL サービスの停止

- 1) [スタート]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[サービス]を選択し、「postgresql-x64-9.2」のサービス「停止」ボタンをクリックします。



- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されなくなったら、サービスの停止は完了です。



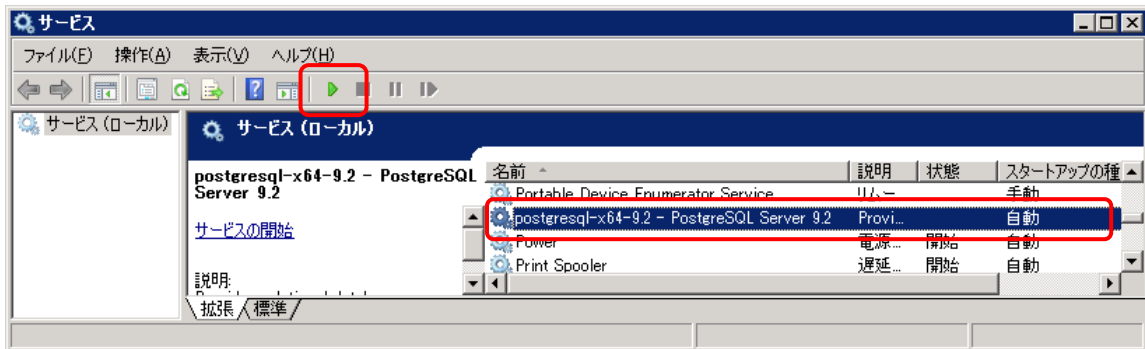
データベースのバックアップ(フォルダコピー)

- 1) PostgreSQL をインストールしているフォルダーから「data」フォルダーを任意のフォルダーにコピーします。
※デフォルトでは、C:¥Program Files¥PostgreSQL¥9.2 フォルダー内にあります。

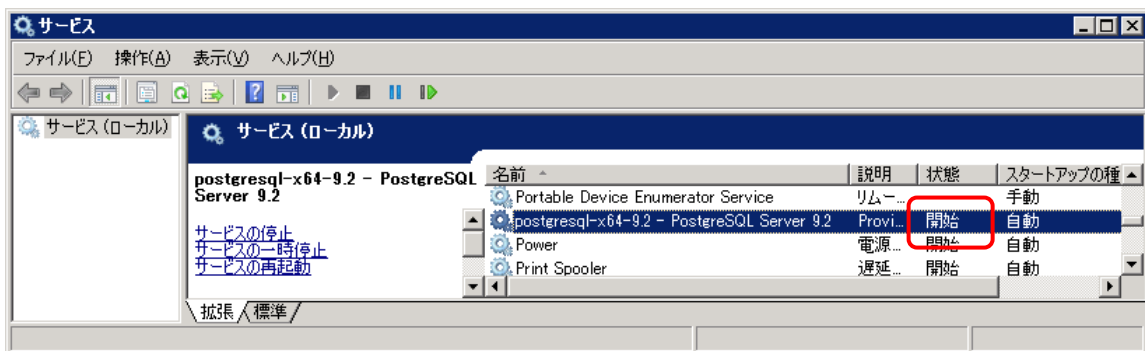


PostgreSQL サービスの開始

- 1) [スタート]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[サービス]を選択し、「postgresql-x64-9.2」のサービス「開始」ボタンをクリックします。



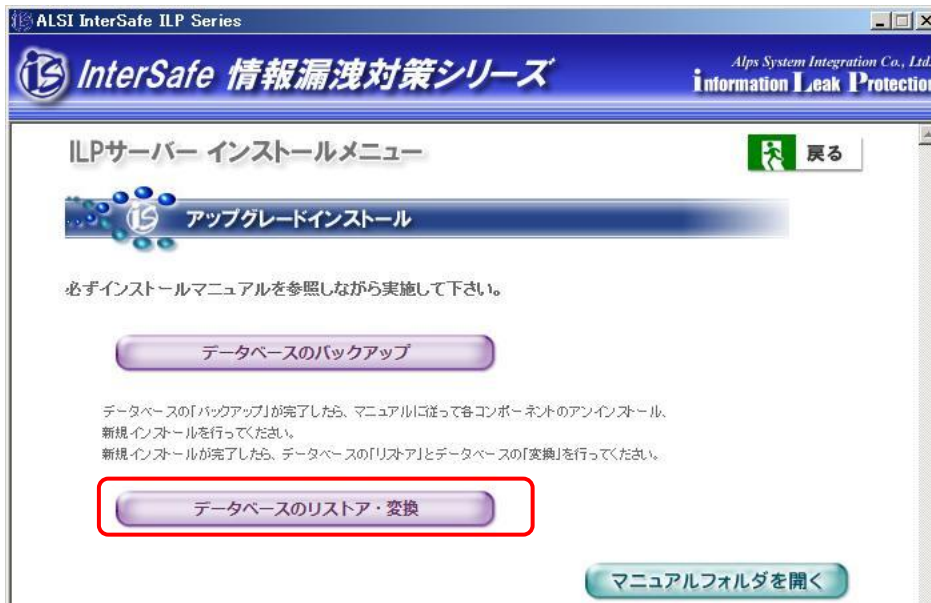
- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されたら、サービスの開始は完了です。



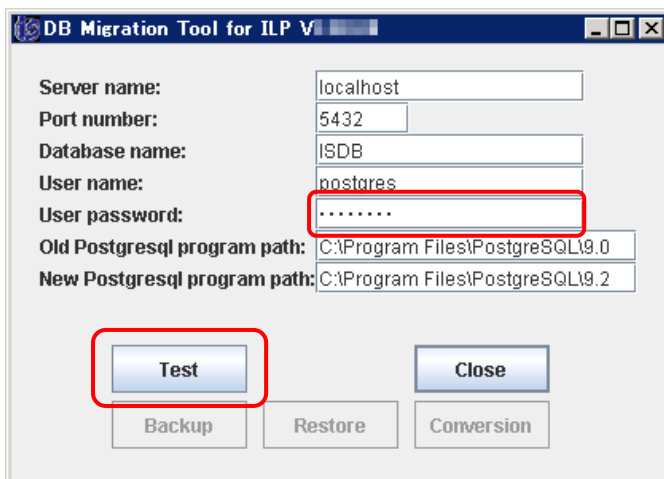
データベースの変換

既存環境(Ver3.xx.xx)のデータベースを新バージョンのデータベースに変換します。

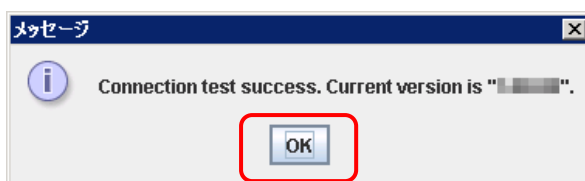
- 1) [データベースのリストア・変換]を実行してください。



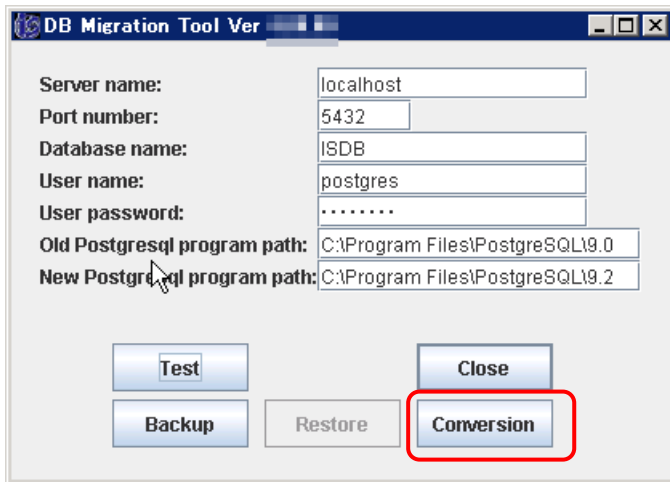
- 2) アップデートツール画面で、[User password]に PostgreSQL のパスワードを入力し、[Test]をクリックします。



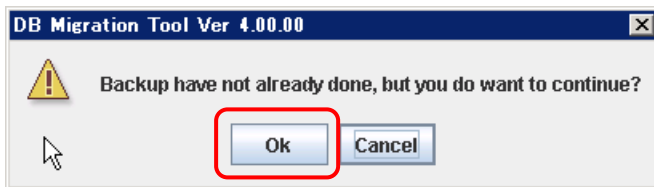
- 3) 下記メッセージが表示されます。[OK]をクリックします。



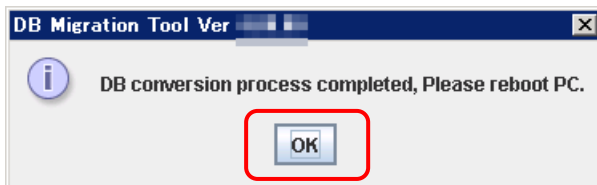
- 4) [Conversion]をクリックします。



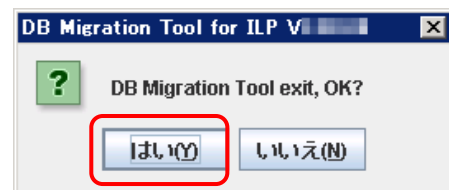
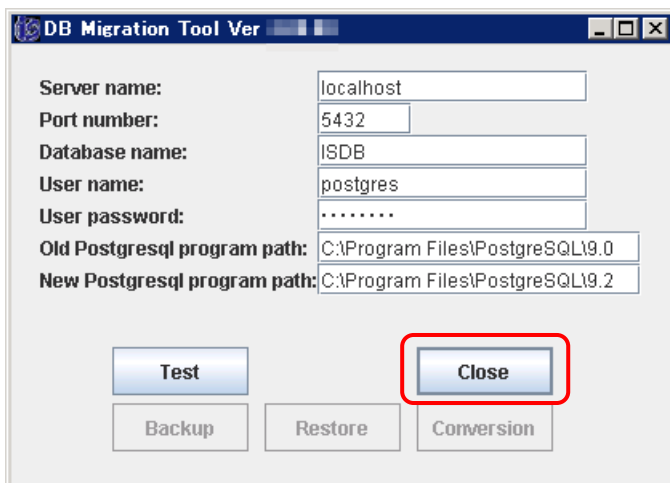
- 5) 確認ダイアログが表示されます。前述の「データベースのバックアップ(フォルダコピー)」が完了している場合は、[OK]をクリックします。



- 6) データベースの変換が完了したら、[OK]をクリックします。



- 7) [Close]をクリックし、ツールを終了してよければ、[はい]をクリックします。



以上でデータベースのバックアップ・変換は完了です。

引き続き、「3-5 旧プログラム(.war ファイル及び展開済みファイル)と work フォルダを削除する」に進んでください。

3-5. 旧プログラム(.warファイル及び展開済みファイル)とworkフォルダーを削除する

旧プログラム(.war ファイル及び展開済みファイル)と work フォルダを削除します。

- 1) {Tomcat インストールフォルダー}\webapps 配下の入れ替え対象となる.war ファイル及びフォルダを削除します。

例) InterSafe Manager の場合は「ISManager.war」の削除及び「ISManager フォルダ」の削除。

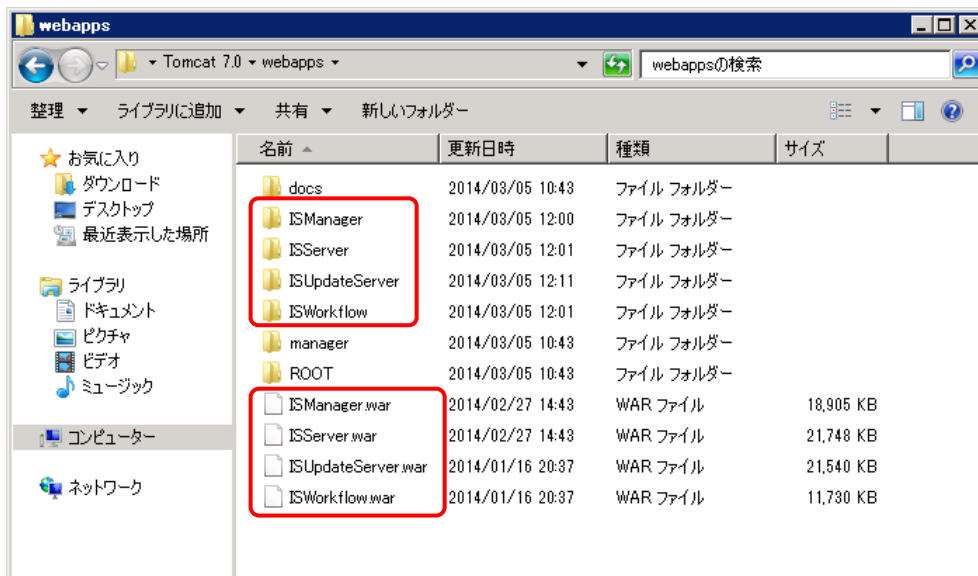
InterSafe Server の場合は「ISServer.war」の削除及び「ISServer フォルダ」の削除。

InterSafe Workflow の場合は「ISWorkflow.war」の削除及び「ISWorkflow フォルダ」の削除。

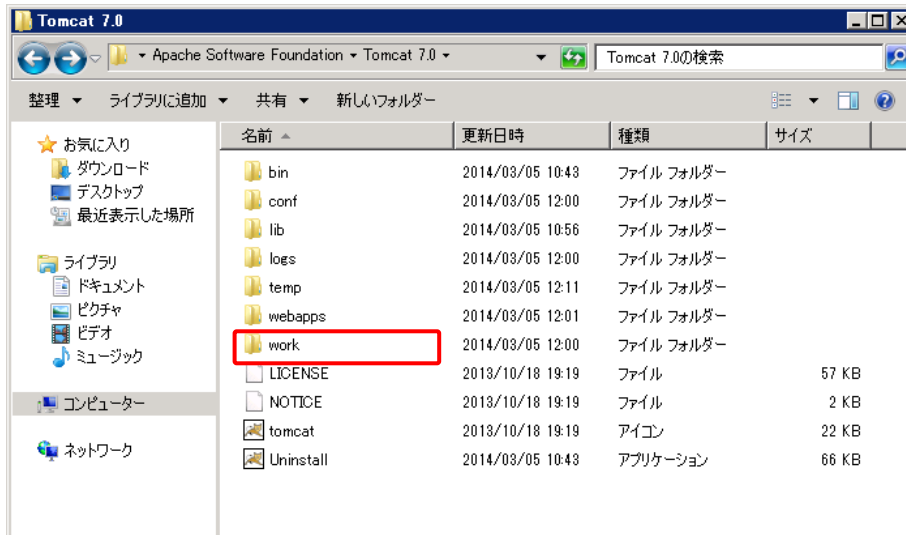
InterSafe UpdateServer の場合は「ISUpdateServer.war」の削除及び「ISUpdateServer フォルダ」の削除。



入れ替え対象の.war ファイル、対象フォルダ以外は削除しないように気をつけてください。



- 2) {Tomcat インストールフォルダー}¥work 配下のフォルダーを削除します。
 本フォルダーに含まれるファイルは Tomcat が作成する一時作業ファイルです。旧プログラムの一時作業ファイルを残さないようにします。

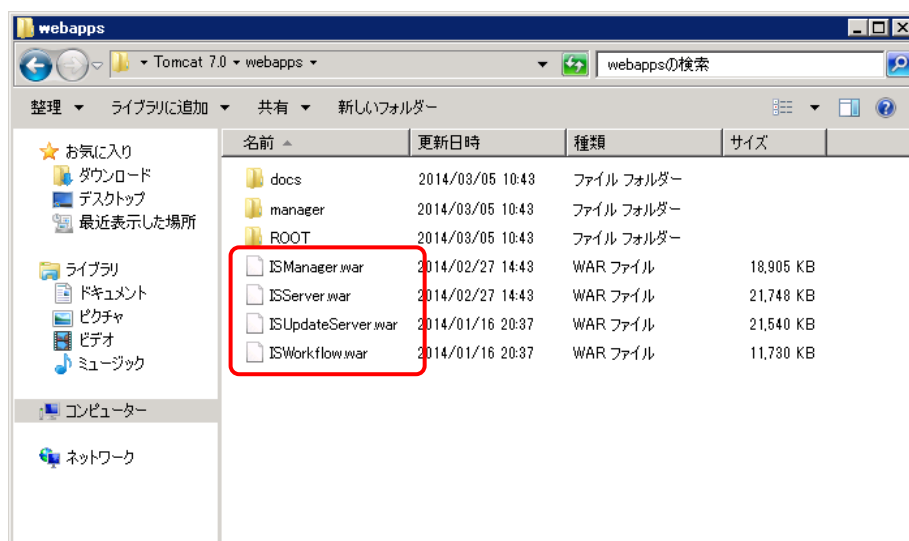


3-6. 新規プログラム(warファイル)をコピーする。

- 1) [Tomcat インストールフォルダー]¥webapps 配下に新しい.war ファイルをコピーします。



.war ファイルは、[インストールメディア]¥Setup¥ilp に格納されています。



3-7. Tomcatサービス、Apacheサービスを開始する

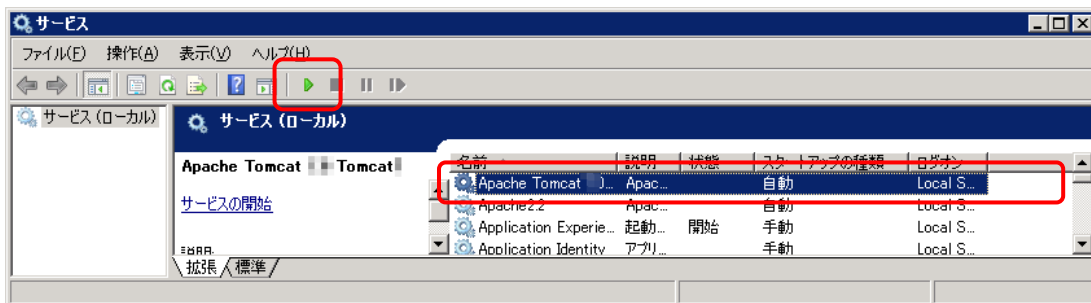
ILP Server に使用される Tomcat サービス、Apache サービスを開始します。



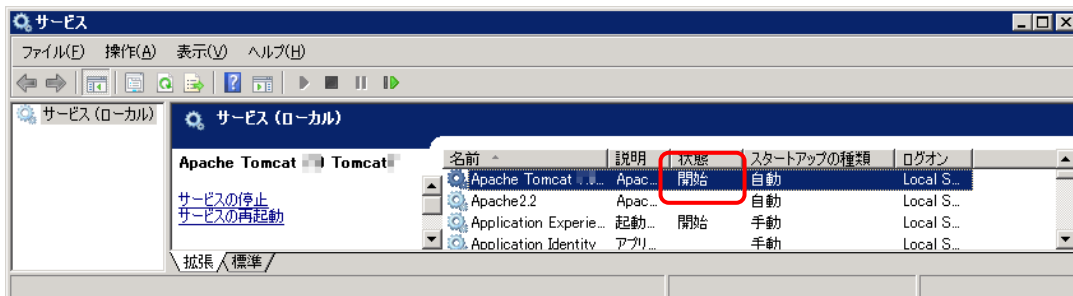
Tomcat サービス、Apache サービスの順番で開始してください。(停止する場合と逆の順番になります)

Tomcat サービスの開始

- 1) [スタート]—[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択し、「Apache Tomcat7」のサービス「開始」ボタンをクリックします。



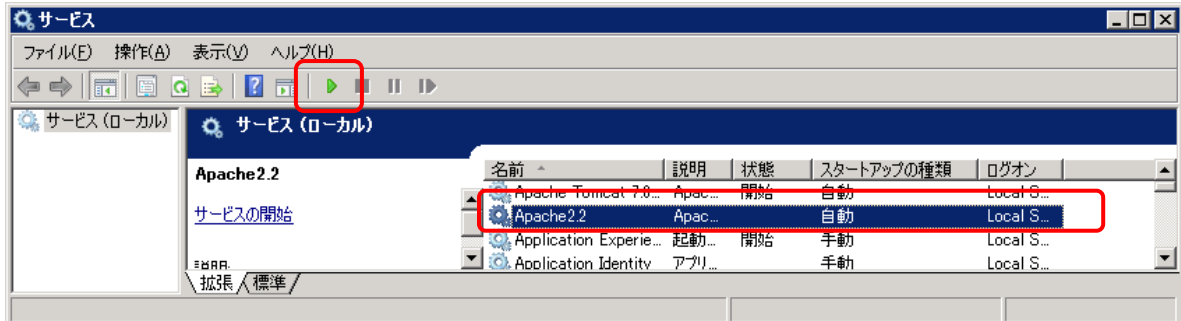
- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されたら、サービスの開始は完了です。



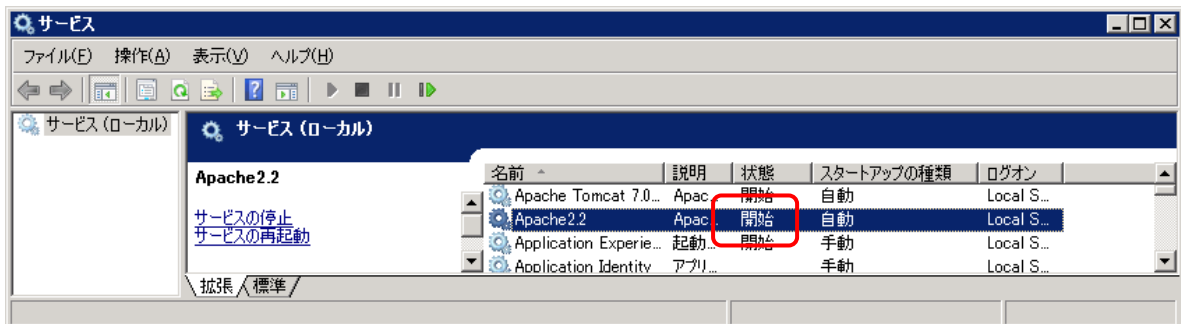
続けて、Apache サービスを開始します。

Apache サービスの開始

- 1) [スタート]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[サービス]を選択し、「Apache2.2」のサービス「開始」ボタンをクリックします。



- 2) 下記のように状態に「開始」が表示されたら、サービスの開始は完了です。



4

4. InterSafe Client のアップデート

本章では、InterSafe Client のアップデート方法を記載します。

InterSafe Client のアップデート方法として「アンインストール/インストール」、「サーバー配信」の 2 種類があります。

【アンインストール/インストール】

各クライアント PC 上で旧バージョンの InterSafe Client をアンインストールし、新バージョンの InterSafe Client をインストールします。

【サーバー配信】

InterSafe Client のアップデート更新プログラムを InterSafe Manager で登録し、ILP Server から各 InterSafe Client に配信します。

本マニュアルでは「サーバー配信」に関して説明します。

また、本例では、v4.00.00 へのアップデート時の設定を記載しています。バージョンが異なる場合は読み替えてください。

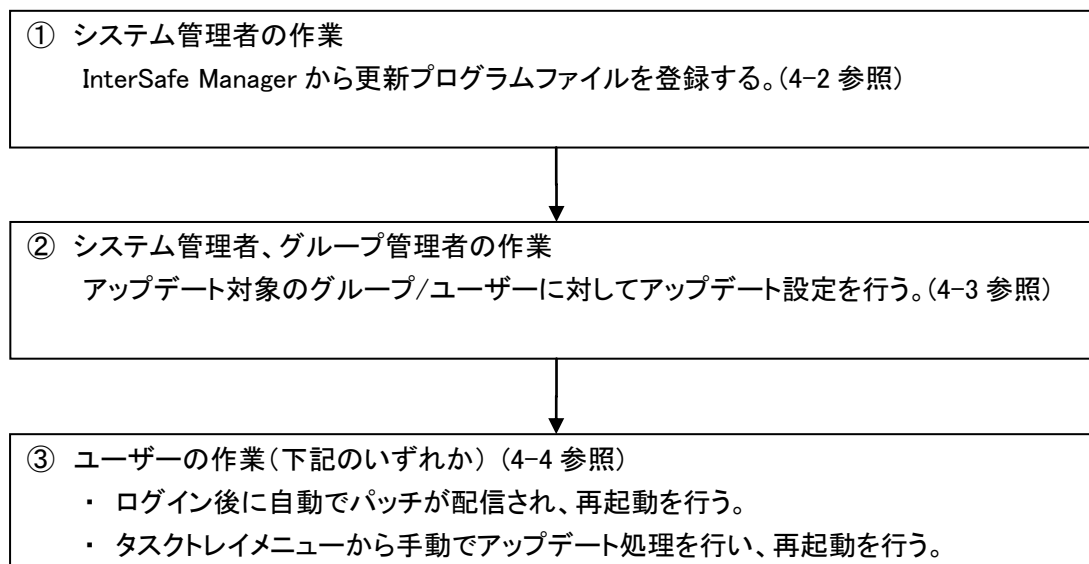


参照

「アンインストール/インストール」の手順に関しては、インストールマニュアル「5. InterSafe Client のインストール/アンインストール」を参照してください。

4-1. InterSafe Clientアップデートの流れ

InterSafe Client のアップデート作業の流れを記載します。



4-2. システム管理者の作業

InterSafe Client のアップデートに関してシステム管理者が実施する作業を記載します。

更新プログラムを登録する



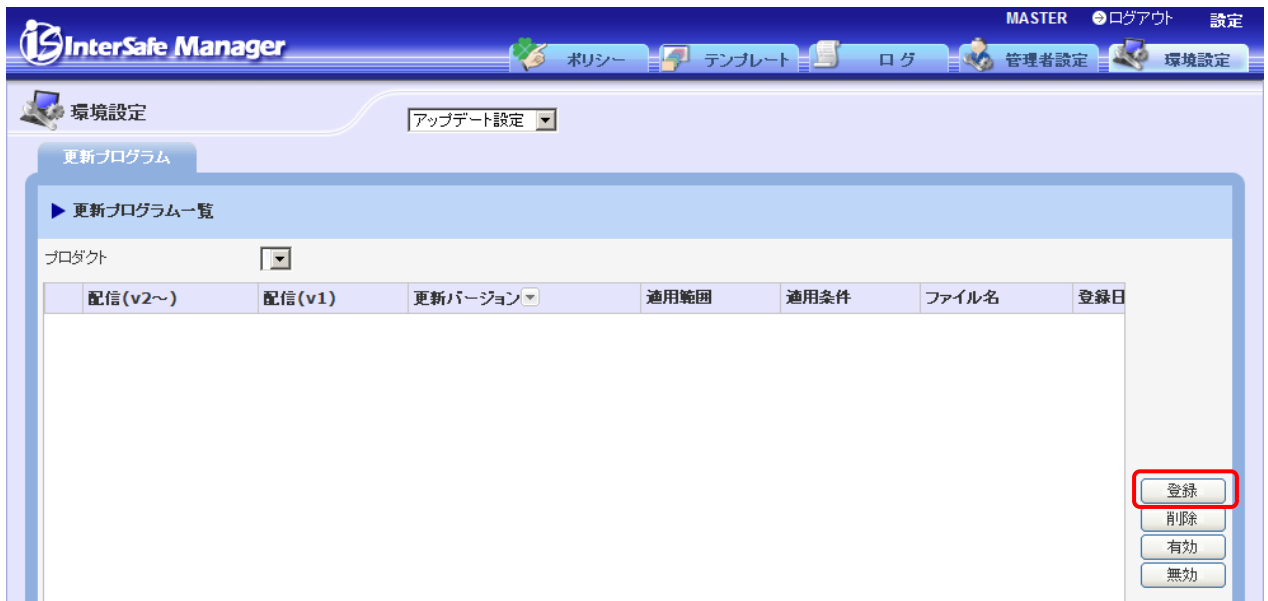
- InterSafe Client 更新プログラムはインストールメディア内の Migration フォルダー内に、リリース時点の最新版が格納されています。最新バージョンの更新プログラムに関しては、弊社サポートサイトも合わせてご確認ください。

[サポートサイト]

<http://support.alsi.co.jp/>

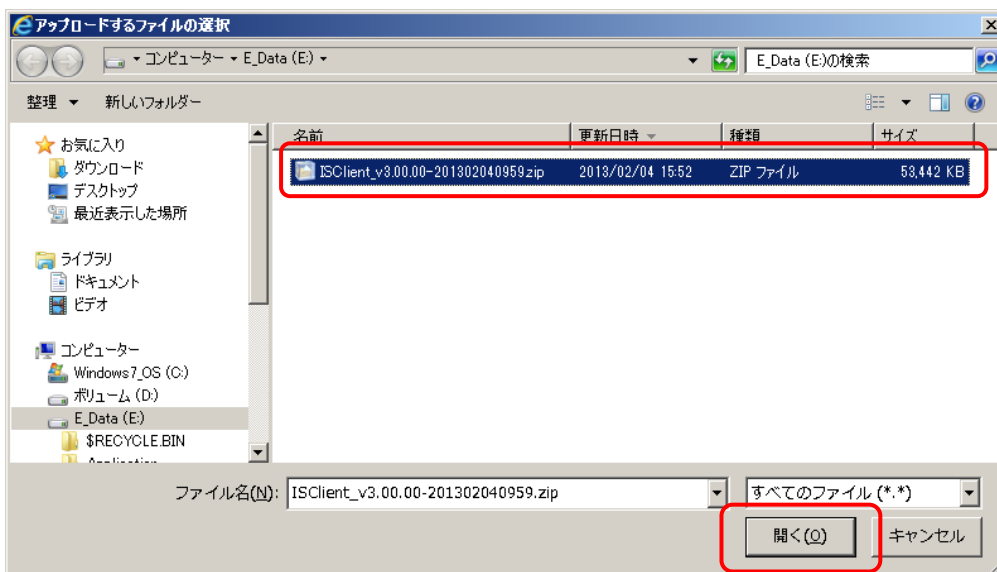
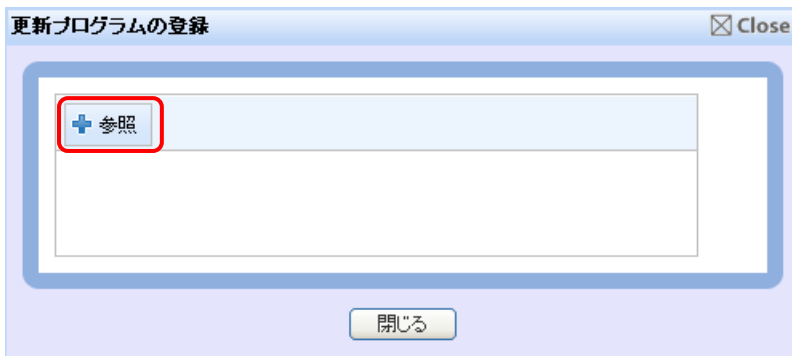
- Ver1.x の更新プログラムが登録されていた場合、Ver2.x 以降にアップデートすると登録されていた更新プログラムは削除されます。

- 1) [更新プログラム一覧]画面で[登録]をクリックします。

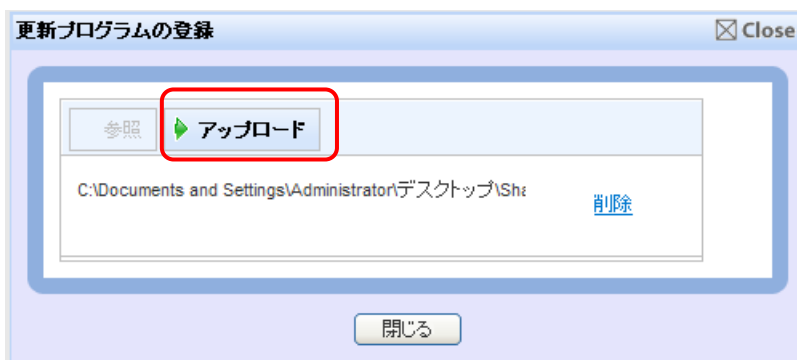


The screenshot shows the InterSafe Manager web application. At the top, there is a navigation bar with 'InterSafe Manager' and several menu items: 'ポリシー', 'テンプレート', 'ログ', '管理者設定', and '環境設定'. Below this, there is a sub-menu for '環境設定' with 'アップデート設定' selected. The main content area is titled '更新プログラム' and contains a section for '更新プログラム一覧'. This section includes a 'プロダクト' dropdown menu and a table with columns: '配信(v2~)', '配信(v1)', '更新バージョン', '適用範囲', '適用条件', 'ファイル名', and '登録日'. On the right side of the table, there are four buttons: '登録', '削除', '有効', and '無効'. The '登録' button is highlighted with a red rectangular box.

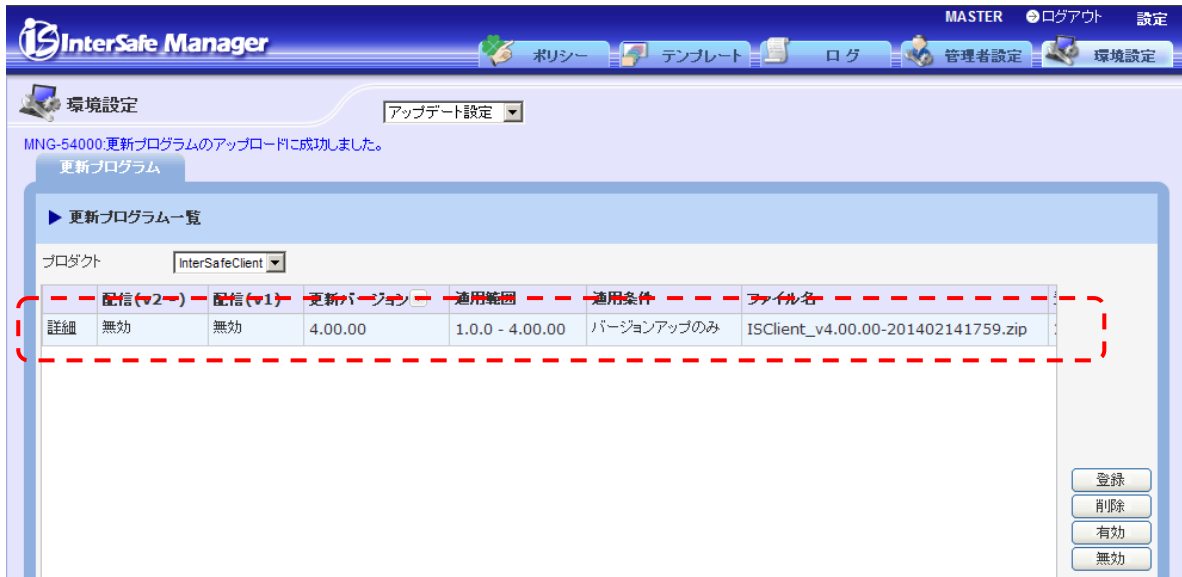
- 2) [更新プログラムの登録]ダイアログで[参照]ボタンをクリックし、任意の更新プログラムを選択します。



- 3) [アップロード]ボタンをクリックし、更新プログラムをアップロードします。アップロード中は進行状況がダイアログに表示されます。

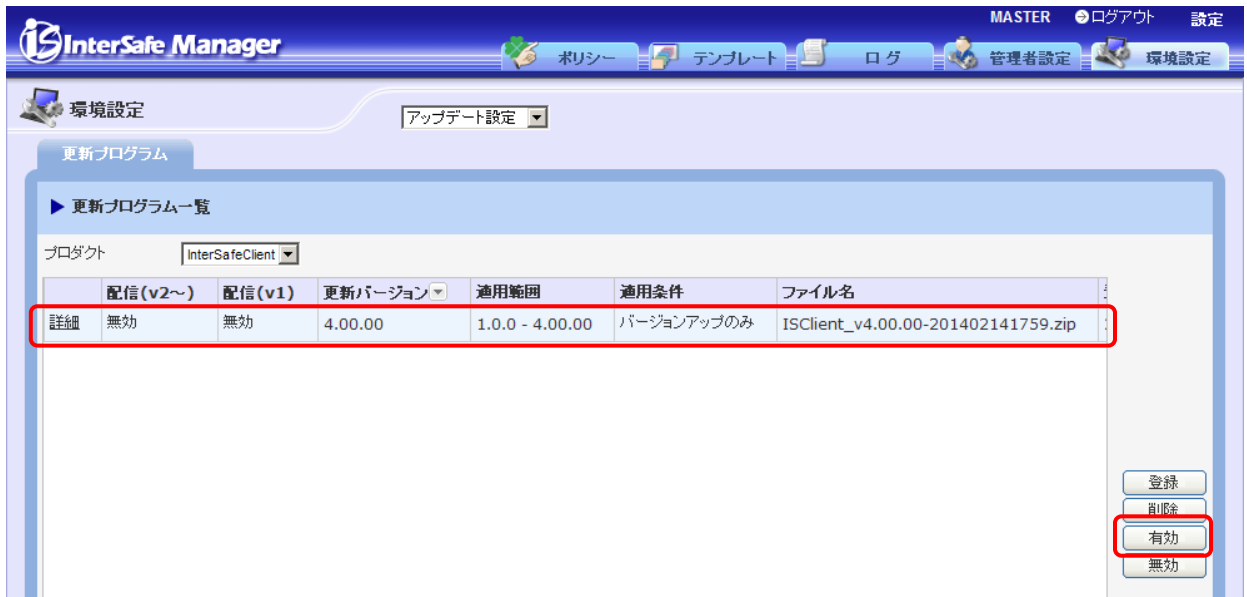


- 4) 更新プログラム一覧に登録された更新プログラムが表示されます。

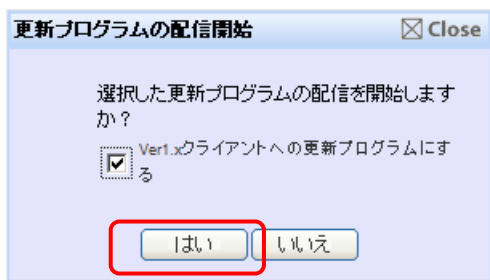


更新プログラムの配信を有効にする

- 1) [更新プログラム一覧]画面で対象の更新プログラムを選択し、[有効]をクリックします。



- 2) [更新プログラムの配信開始]ダイアログで[はい]をクリックします。
Ver 1.x のクライアントにも配信する場合は、チェックします。



- 3) 対象更新プログラムの配信設定が有効になります。

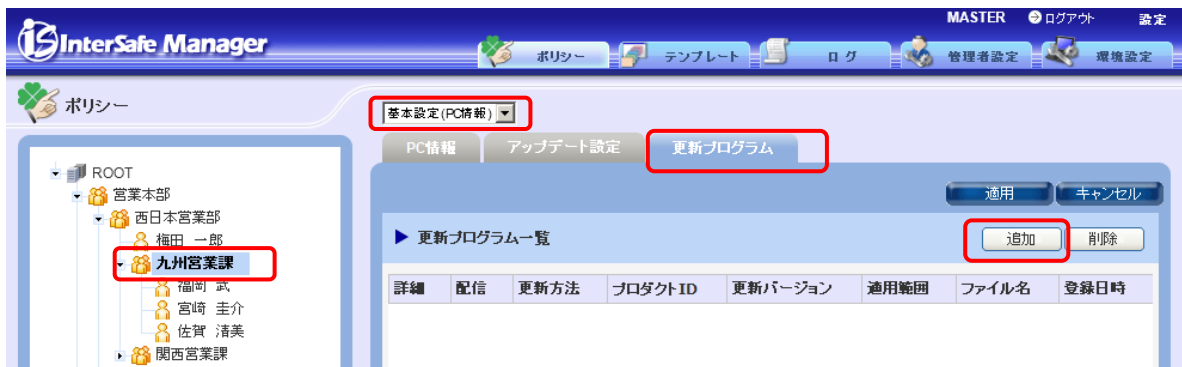


4-3. システム管理者、グループ管理者の作業

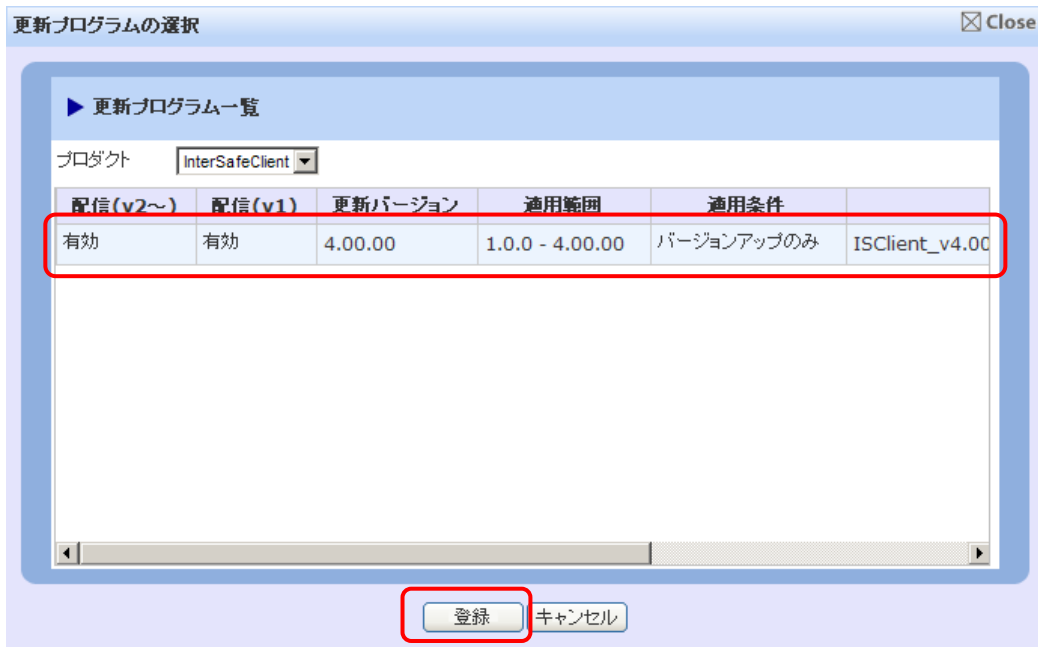
InterSafe Client のアップデートに関してシステム管理者、グループ管理者が実施する作業を記載します。

アップデート対象グループ/ユーザーに更新プログラムを設定する

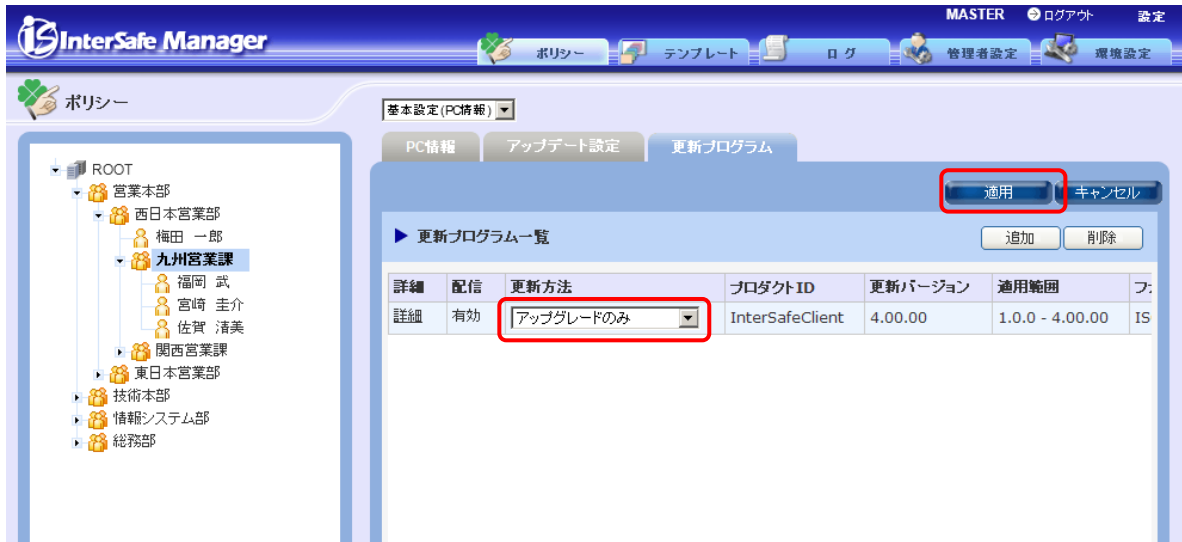
- 1) 組織ツリー上で情報を変更するグループ、ユーザーをクリックします。
- 2) プルダウンリストの[基本設定(PC 情報)]を選択し、[更新プログラム設定]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックします。



- 3) 適用したい更新プログラムを選択し、[登録]をクリックします。



- 4) 配信更新プログラム一覧に表示されることを確認後、必要に応じて更新種別を変更し、[適用]ボタンをクリックします。

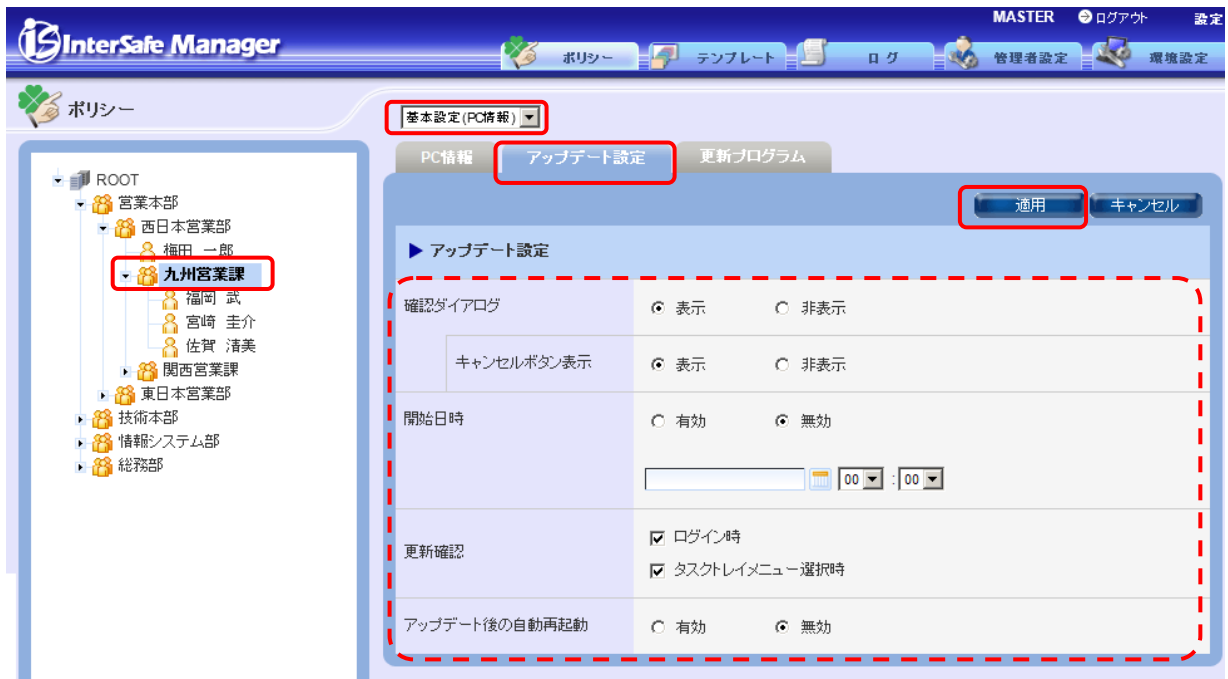


■更新種別の設定

設定項目	内容
アップグレードのみ	対象PCにインストールされているInterSafe Clientのバージョンが 配信中のパッチのバージョンより古い場合のみ適用。 ※但し、更新プログラム一覧の「適用範囲」に表示されているバージョンに 対してのみ有効です。
強制 (ダウングレード含む)	対象PCにインストールされているInterSafe Clientのバージョンに関わらず適用。 ※但し、更新プログラム一覧の「適用範囲」に表示されているバージョンに 対してのみ有効です。

アップデート対象グループ/ユーザーの配信方法を設定する

- 1) 組織ツリー上でアップデート対象のグループ、ユーザーをクリックします。
- 2) プルダウンリストの[基本設定(PC 情報)]を選択し、[アップデート設定]タブをクリックします。
- 3) 各設定を行い、[適用]をクリックします。



4-4. ユーザーの作業

InterSafe Client のアップデートに関してユーザーで行う作業を記載します。

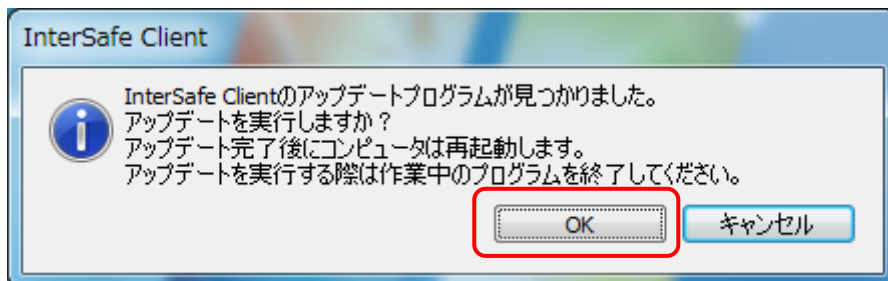
4-3 システム管理者、グループ管理者の作業で記載の「更新確認」によってユーザーの作業内容が異なります。

注意事項

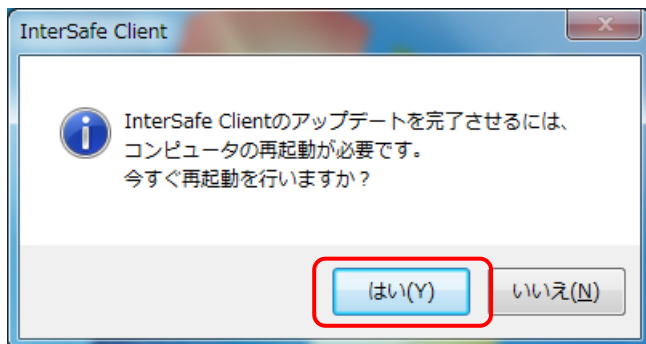
- InterSafe Manager の「アップデート後の再起動」の設定が“有効”の場合には、[OK]をクリック後は、更新プログラムのダウンロード、プログラムのアップデート処理が完了後に強制的に PC が再起動されますのでご注意ください。
- InterSafe SecureDevice Ultimate をご利用の場合は、InterSafe Client バージョンアップ後、セキュアデバイスが利用できなくなる場合がありますので、後述の「5. セキュアデバイスのアップデート」を必ず実施してご利用ください。
- アップデート処理を開始するとログアウトポリシーが適用されますのでご注意ください。
- 再起動の選択(任意設定)は、InterSafe Client Ver3.00 からの新機能です。その為、InterSafe Client Ver2.x 以前の場合には、強制的に再起動が実施されますのでご注意ください。

更新確認が「ログイン時」の場合

- 1) アップデート対象ユーザーが InterSafe Client にログイン後、下記メッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。



- 2) アップデート処理が完了したら、再起動を求められますので、[はい]または[いいえ]をクリックします。

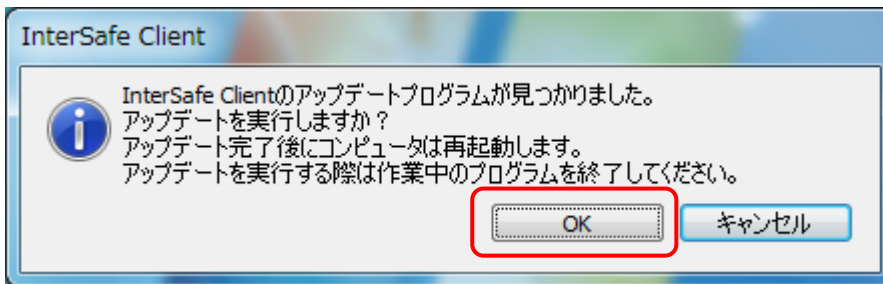


更新確認が「タスクトレイメニュー選択時」の場合

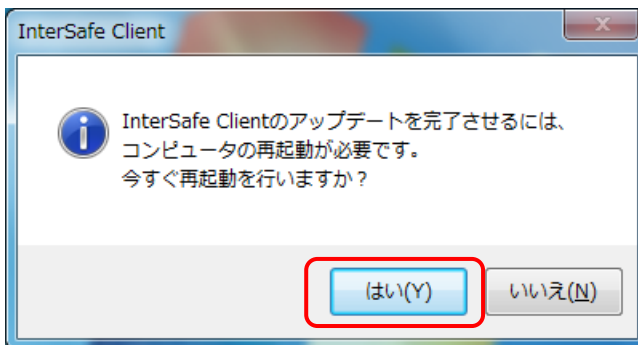
- 1) InterSafe Client アイコンを右クリックし、[アップデート]をクリックします。



- 2) アップデート対象の更新プログラムが存在する場合は、下記ダイアログが表示されますので、[OK]をクリックします。



- 3) アップデート処理が完了したら、再起動を求められますので、[はい]または[いいえ]をクリックします。



5

5. セキュアデバイスのアップデート

本章では、セキュアデバイスのアップデート方法を記載します。

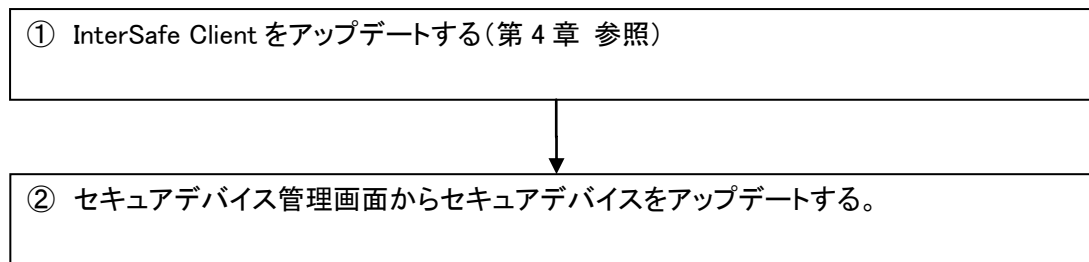
セキュアデバイスのアップデート方法は、InterSafe Client のアップデート後に「セキュアデバイス管理」画面からアップデートを行います。



InterSafe Client のアップデートに関しては、「4. InterSafe Client のアップデート」を参照してください。

5-1. セキュアデバイスのアップデートの流れ

セキュアデバイスのアップデート作業の流れを記載します。



5-2. セキュアデバイスのアップデート

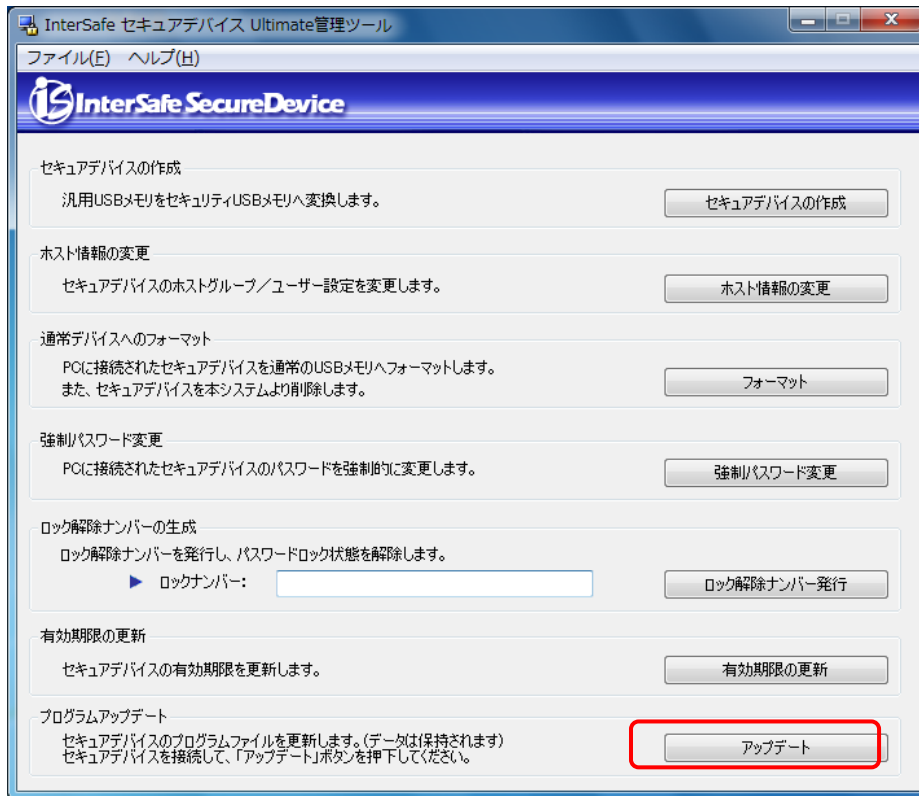
セキュアデバイスのプログラムのアップデート方法について説明します。

セキュアデバイスのアップデート

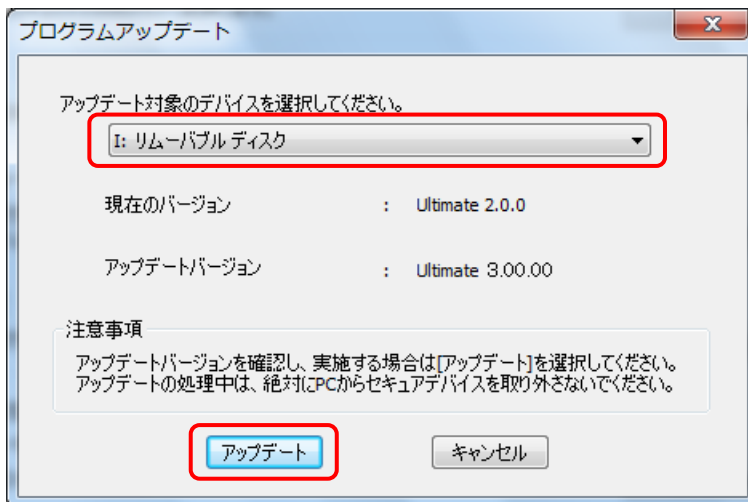
- 1) アップデートしたいセキュアデバイスを PC に接続します。
- 2) InterSafe Client アイコンを右クリックし、[セキュアデバイス管理]をクリックします。



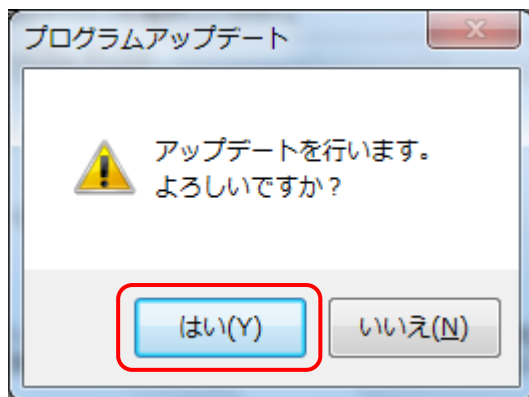
- 3) InterSafe セキュアデバイス Ultimate 管理ツールの[アップデート]をクリックします。



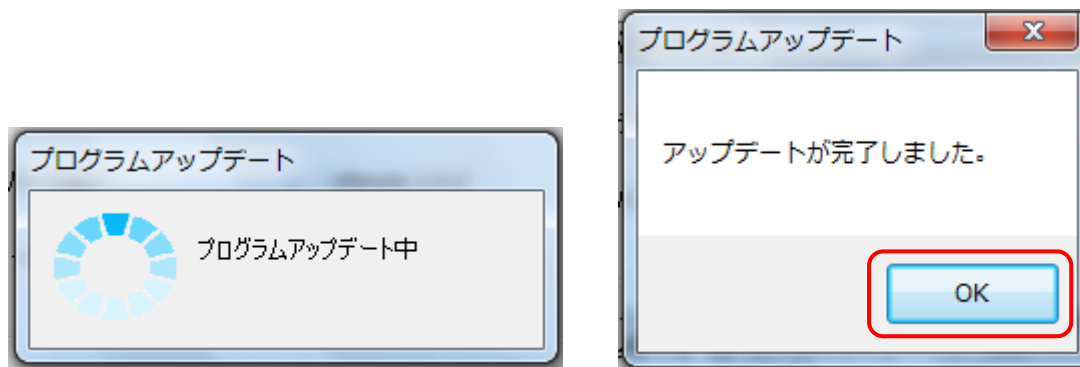
- 4) アップデートを行うセキュアデバイスを選択して、[アップデート]をクリックします。



- 5) 確認ダイアログが表示されます。アップデートする場合は、[はい]をクリックします。

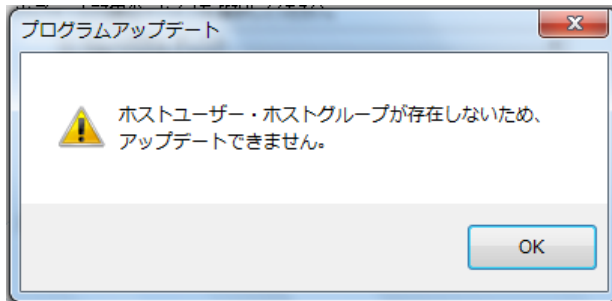


- 6) アップデート中は、処理中を現すダイアログが表示されます。完了後に[OK]をクリックします。

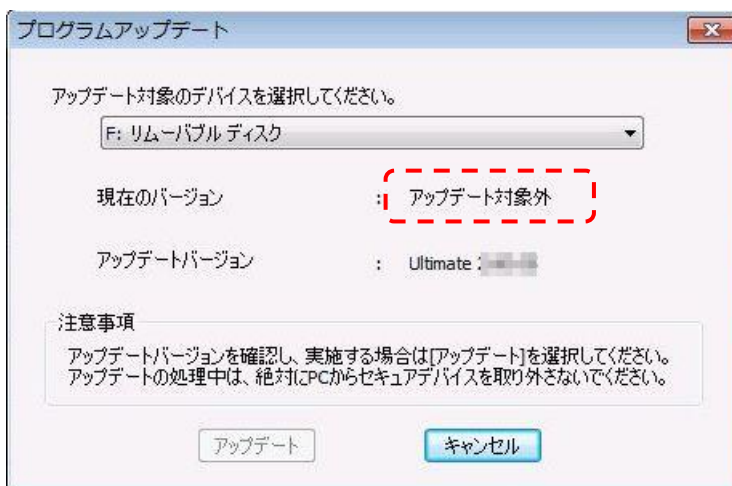


⚠️ 注意事項

- アップデート対象のセキュアデバイスには1つ以上のホストユーザー、ホストグループが存在しない場合にはエラーメッセージが表示されますのでご注意ください。



- セキュアデバイス作成後、1度も利用していないセキュアデバイス(未初期化状態)はアップデートできませんのでご注意ください。この場合は、「通常デバイスへのフォーマット」機能により、通常の USB デバイスに戻した後、再度セキュアデバイスを作成してください。もしくは、予め InterSafe Client がインストールされていない PC で一度利用した後、アップデートを実施してください。



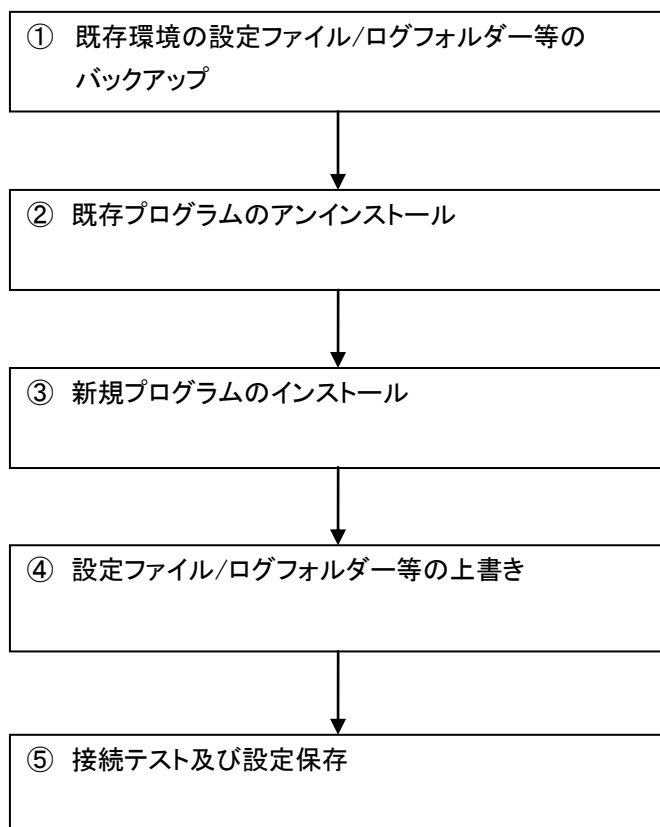
6

6. ユーザー連携ツールのアップデート

本章では、ユーザー連携ツールのアップデート方法を記載します。

6-1. バージョンアップ作業の流れ

<バージョンアップの流れ>



6-2.既存環境の設定/ログのバックアップ

- 1) 設定情報/ログが含まれる下記フォルダーとファイルを任意のフォルダーにコピー(バックアップ)します。

■コピーするフォルダー

C:\Program Files(x86)\ALSI\Tools\CsvImport (デフォルト値)フォルダー内の下記フォルダー

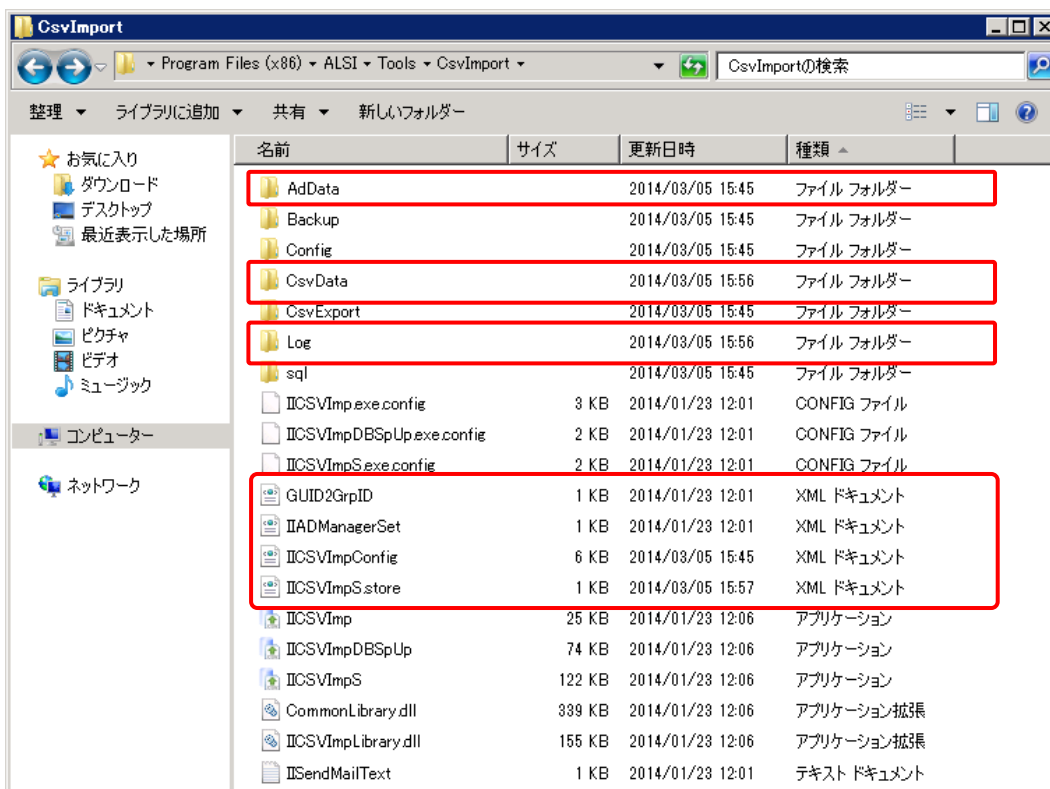
- ・ AdData (AD から情報を取り込む際に使用する CSV ファイルを含むフォルダー)
- ・ CsvData(※) (CSV から情報を取り込む際に使用する CSV ファイルを含むフォルダー)
- ・ Log (ログファイル)

※バージョンによりフォーマットが異なる為、6-3CSV ファイルの編集をご参照下さい。

■コピーするファイル

C:\Program Files(x86)\ALSI\Tools\CsvImport (デフォルト値)フォルダー内の xml ファイル

- ・ GUID2GrpID.xml
- ・ IIADManagerSet.xml
- ・ IICSVImpConfig.xml
- ・ IICSVImpS.store.xml



- インストールパスを変更している場合は、ご利用の環境に合わせて下さい。
- 上記ファイルのうち、バージョンによっては存在しない場合があります。
存在しないファイルはバックアップ不要です。

- 2) ユーザー連携ツール操作マニュアルの 2-2.アンインストールを参照し、既存プログラムをアンインストールします。
- 3) ユーザー連携ツール操作マニュアルの 2-1.インストールを参照し、新規プログラムをインストールします。
- 4) 前述1)でバックアップしたフォルダー、ファイルを新規にインストールした環境の同フォルダー、ファイルに対して上書きコピーします。
- 5) 「IICSVImpConfig.xml」ファイルを編集します。
10 行目に記載の接続先データベースバージョンを新バージョンに合わせてに変更、保存します。
例) Ver4.00.xx の場合は、「4.00」と編集する。

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<Configuration>
  <Database>
    <ConnectionString id="dsdb_connectionstring">Driver={PostgreSQL Unicode};Server=${host};Port
    <Host id="dbIp">127.0.0.1</Host>
    <Port id="dbPort">5432</Port>
    <Instance id="dbInstance">ISDB</Instance>
    <UserId id="dbId">postgres</UserId>
    <UserPw id="dbPw">password</UserPw>
    <TargetDatabaseVersion id="db_targetdatabaseversion">4.00</TargetDatabaseVersion>
  </Database>
</CsvImport>
    
```



接続先データベースバージョンは、InterSafe Manager の[環境設定]-[システム設定]-[基本設定]から確認できます。



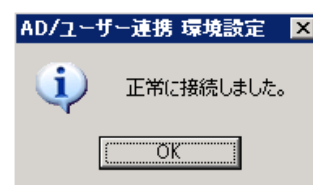
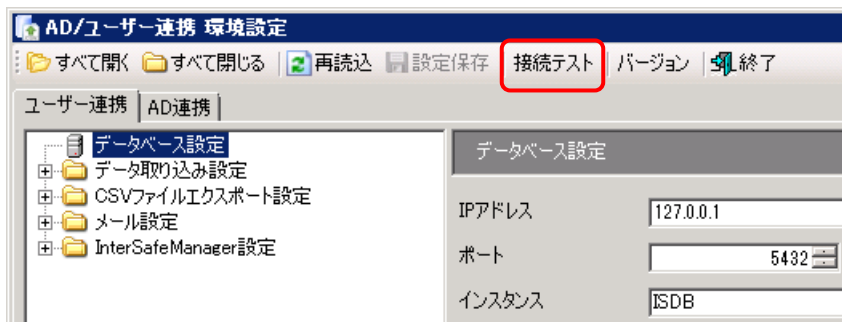
- 6) [スタート]-[すべてのプログラム]-[ALSI]-[InterSafe]-[ユーザー連携ツール]-[AD/ユーザー連携 環境設定]を開き、[ユーザー連携]タブを開きます。

- 7) [データベース設定]の各項目から接続先のデータベースに関する設定を行い、[データベース設定]完了後”接続テスト”をクリックし、データベースに接続できることを確認します。接続に失敗した場合は、設定を再確認して下さい。



注意事項

「接続テスト」は必ず実施して下さい。



6-3. CSVファイルの編集

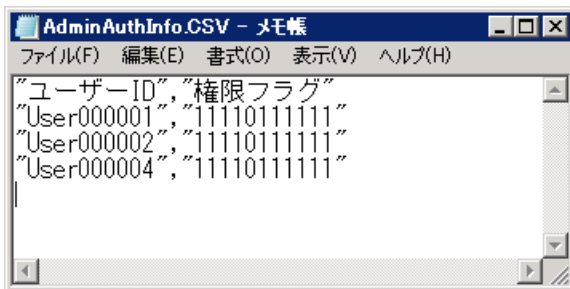
グループ情報やユーザー情報等の CSV ファイルは、InterSafe ILP のバージョンによって、フォーマット(記載形式)が異なるものがあります。

旧バージョンのフォーマットと新バージョンのフォーマットが異なる場合は、新バージョンのフォーマットに合わせて、該当 CSV ファイルを編集して下さい。

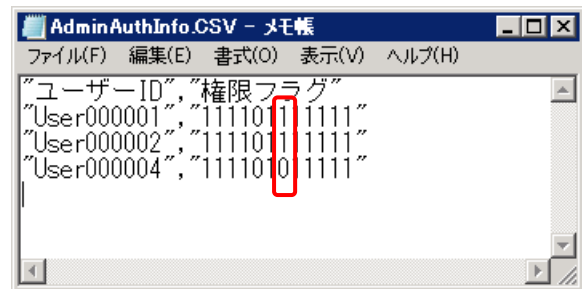
※フォーマットが同じ場合には、編集不要です。

CSVファイル名	変更バージョン	内容
SecureDeviceInfo.CSV	2.00	“管理ツール設定”で「アップデート」が追加されました。
AdminAuthInfo.CSV	2.00	“権限フラグ”で「ポリシー>基本設定(PC)」が追加されました。
	2.00	“権限フラグ”で「ポリシー>ファイル暗号」が追加されました。
	2.00	“権限フラグ”で「テンプレート>ファイル暗号」が追加されました。
	3.00	“権限フラグ”で「ポリシー>セキュアPDF」が追加されました。

例) AdminAuthInfo.CSV ファイルの Ver2.00 と Ver3.00 との差分



【Ver2.00 での AdminAuthInfo.CSV】



【Ver3.00 での AdminAuthInfo.CSV】

以上で、バージョンアップ時の作業は完了です。

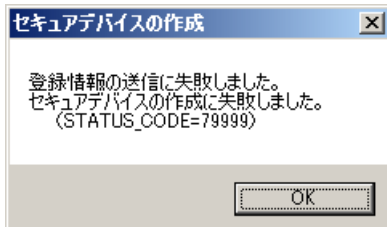
7

7. アップデート後の注意事項

本章では、アップデート後の注意事項について記載します。

セキュアデバイスの再作成に関する注意事項

InterSafe Client v1.X 且つ ILP Server が v2.0 以上の環境で、既に ILP Server 側に登録されているセキュアデバイスを再登録した際、下記のようなエラーメッセージが表示されます。この場合は、一度通常デバイスへのフォーマットを実行してから再度登録してください。



アンインストールに関する注意事項

InterSafe Client をアップデートした端末で InterSafe Client をアンインストール時、一部ファイルが残る場合があります。この場合は、C:\Program Files\ALSI\InterSafe Client フォルダを削除してください。

プロセス終了対策設定が有効な場合

InterSafe Client Ver1.0.x、Ver1.5.x から Ver2.x 以降にバージョンアップしたクライアントプログラムはプロセス終了対策設定が有効な場合にはアンインストールできませんのでご注意ください。設定を無効にするようにしてください。

メールテンプレートの文言変更について

ILPv3.0 からワークフローに関する文言が「持出し」⇒「書出し」に変更されます。但し、「環境設定」における下記文言については、変更ありません。

- ・ [システム設定]-[メールテンプレート]の文言
- ・ [ワークフロー設定]-[外部デバイス利用申請/ファイル書出し申請]のタイトル/選択肢設定

セキュアデバイスの互換性

セキュアデバイスと InterSafe Client/SD ドライバソフトの動作互換性について下記に記載します。

※InterSafe Client Ver3.00 以降 (Ver4.00 等) では、SDDriverSoftVer3.0 となります。

		セキュアデバイス(USB メモリ)	
		Ver2.x 以前	Ver3.0
InterSafe Client/ SD ドライバソフト	Ver2.x 以前	利用可能	<p>■Admin 権限の場合 下記メッセージが表示されて SD が起動できない。 「インストールされている SD ドライバソフトをアンインストールし、PC を再起動してから本処理を実施してください。エラーコード[111]」</p> <p>■User 権限の場合 下記メッセージが表示されて SD が起動できない。 「セキュアデバイスをユーザ権限で使用するには事前にセキュアデバイス内の Setup.exe を管理者権限でインストールして下さい。」</p>
	Ver3.0	<p>■Admin 権限の場合 利用可能</p> <p>■User 権限の場合 下記メッセージが表示されて SD が起動できない。 「セキュアデバイスをユーザ権限で使用するには事前にセキュアデバイス内の Setup.exe を管理者権限でインストールして下さい。」</p>	利用可能

情報漏洩対策シリーズ InterSafe ILP アップデートマニュアル

第7版 2014年6月4日

作成/発行/企画 アルプスシステムインテグレーション株式会社

〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町 1-7

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

- ・本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- ・本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複製することを禁じます。
- ・本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。